

# 2021年 院内がん登録全国集計 速報

## 2021年(拠点+小児拠点)症例 2018-2021年症例登録数推移

令和4年12月

国立がん研究センター がん対策研究所  
がん登録センター 院内がん登録分析室

# 院内がん登録とは

- 病院でがんと診断または治療が行われたすべての患者さんのデータを、診療科を問わず病院全体で集め、その病院のがん診療がどのように行われているかを明らかにする調査で、国が指定するがん診療連携拠点病院等を中心に2007年より実施されています。
- 「がん登録等の推進に関する法律（第四十四条第一項）」と「院内がん登録の実施に係る指針（厚生労働省告示第四百七十号）」のもと、国立がん研究センターでデータを収集し分析しています。
- 収集・集積したデータを分析・活用することで、がん診療の質の向上、がん対策の策定や実施に貢献することが期待されています。

# 院内がん登録の位置づけ-1

## ➤ **がん登録等の推進に関する法律** 第四十四条第一項

専門的ながん医療の提供を行う病院、その他の地域におけるがん医療の確保について重要な役割を担う病院の開設者及び管理者は、厚生労働大臣が定める指針に即して院内がん登録を実施するよう努めるものとする

## ➤ **院内がん登録の実施に係る指針** 厚生労働省告示第四百七十号

院内がん登録とは、

**「病院において、がん医療の状況を適確に把握するため、当該病院におけるがん患者について、全国がん登録情報よりも詳細な治療の状況を含む情報を収集し、院内がん登録データベースに記録し、及び保存すること」**

# 院内がん登録の位置づけ-2

## ➤ 院内がん登録の実施に係る指針（厚生労働省告示第四百七十号）

院内がん登録データベースの活用により、以下の効果が期待される

1. 病院において、当該病院において診療が行われたがんの罹患、診療、転帰等の情報を適確に把握し、治療の結果等を評価すること及び他の病院における評価と比較することにより、がん医療の質の向上が図られること
2. 国立研究開発法人国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うことにより、**専門的ながん医療を提供する医療機関の実態把握**に資すること
3. 病院や国立がん研究センターにおいて、**院内がん情報等を適切に公表することにより、がん患者及びその家族等の医療機関の選択等**に資すること
4. 行政において、前号に基づき公表された院内がん情報を活用し、がん対策の企画立案やがん医療の分析及び評価を行うことにより、がん対策の充実が図られること

# 2021年 院内がん登録全国集計\_速報

- 2021年1月1日－12月31日にがん診療連携拠点病院(以下、拠点)、小児がん拠点病院(以下、小児拠点)で診断された症例を、2022年9月に収集
- 拠点：453施設(809,527件)、小児拠点：6施設(627件)
- 上記施設のうち2018年－2021年まで継続して院内がん登録全国集計にデータ提供をした施設に限定して分析

# 【局在分類】 部位別登録数の分析に使用

部位名	第1段階 ICD-O-3 形態コード	第2段階 ICD-O-3 部位コード
口腔		C00、C02.0-02.3、C02.8-0.29、C03.0-C05.0、C05.8-C06.9
唾液腺		C07、C08
上咽頭		C11
中咽頭		C01、C02.4、C05.1-05.2、C09、C10.0、C10.2-10.9、C14
下咽頭		C12-C13
食道		C15
胃		C16
小腸		C17
結腸		C18
直腸		C19-C20
大腸		C18-C20
肛門/肛門管		C21
肝臓		C22
胆嚢・胆管		C23-C24
膵臓		C25
喉頭		C10.1、C32
肺		C33-C34
骨・骨軟部		C40-C41、C47、C49
皮膚（黒色腫を含む）		C44
乳房		C50
膣、外陰部		C51、52
子宮頸部		C53
子宮体部		C54
子宮		C55
卵巣		C56
前立腺		C61
精巣		C62、C63.0、C63.1
腎臓		C64
膀胱		C67
腎盂尿管		C65、C66、C68
脳・中枢神経系		C70、C71、C72、C751-C753
甲状腺		C73
悪性リンパ腫	959-972、974-975	
多発性骨髄腫	973、976	
白血病	980-994	
他の造血器腫瘍	995-998、999	C421
その他		第1段階、第2段階で変換された以外の症例

# 【局在+形態分類】 TNM分類総合病期、治療方法別分析に使用

	局在	組織形態
胃癌	C160, 161-166, 168, 169	8000-8158(8153を除く) , 8160-8162, 8170-8231, 8244, <u>8245</u> , 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8560-8576, 8940-8941, 8980-8981
大腸癌	C180, 182-189, 199, 209	8000-8158(8153を除く) , 8160-8162, 8170-8231, 8244, <u>8245</u> , 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8560-8576, 8940-8941, 8980-8981
肝細胞癌	C220	8170-8175, 8020
肝内胆管癌	C221	8140/2, 8148/2, 8160-8163, 8180, 8470, 8480, 8503, 8560, 8033, 8032, 8430, 8490, 8070, 8041
肺癌		8000-8158, 8160-8162, 8170-8231, 8240-8245, 8246-8247, 8249, 8250- <u>8552</u> , 8560-8576, 8940-8941, 8972, 8980-8981,
肺小細胞癌	C340-343, 348, 349	<u>8002</u> , 8041-8045
肺非小細胞癌		8000-8158 (8013, 8041-8045を除く) , 8160-8162, 8170-8231, 8240-8245, 8246-8247, 8249, 8250- <u>8552</u> , 8560-8576, 8940-8941, 8972, 8980-8981
乳癌	C500-509	8000-8158, 8160-8162, 8170-8231, 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8560-8576, 8940-8941, 8982, 8980-8981
		8000-8005, 8010-8015, 8020-8022, 8030-8046, 8050
		(扁平上皮癌) 8051-8052, 8070-8078, 8081, 8083-8084, 8094, 8560, 8980-8981
食道癌	C150-152, 158, 159	(腺癌) 8140, 8141, 8143, 8145, 8147, 8150, 8154, 8160, 8163, 8190, 8200, 8201, 8210, 8211, 8213, 8214, 8215, 8220, 8221, 8244, <u>8245</u> , 8250, 8251, 8255, 8260, 8261, 8262, 8263, 8270, 8280, 8290, 8300, 8310, 8312, 8320, 8322, 8323, 8330, 8331, 8332, 8333, 8340, 8350, 8370, 8380, 8382, 8383, 8384, 8400, 8401, 8408, 8410, 8413, 8420, 8441, 8450, 8460, 8470, 8480, 8481, 8482, 8490, 8500, 8503, 8504, 8510, 8520, 8525, 8550, 8570, 8571, 8572, 8573, 8574, 8576
膵臓癌	C250-252, 259	8000-8158 (8150-8153, 8155, 8156を除く) , 8160-8163, 8170-8231, 8243-8245, 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8552, 8560-8576, 8940-8941, 8971, 8980-8981
高分化型神経内分泌腫瘍 (膵臓)	C250-252, 259	8150-8153, 8155, 8156, 8246/31

## 【局在+形態分類】 TNM分類総合病期、治療方法別分析に使用

局在		組織形態
前立腺癌	C619	8000, 8010, 8013, 8020, 8041, 8140-8384, 8400, 8408, 8410, 8413, 8420, 8441, 8450, 8460, 8470, 8480-8482, 8490, 8500, 8503-8504, 8520, 8525, 8530, 8550 (旧ルール登録があるため), 8560, 8570, 8571-8574, 8576, 9070, 9110
子宮頸癌	C530-531, 538, 539	8000-8158, 8160-8162, 8170-8231, 8240, 8246/32-8247/39, 8249, 8250-8551, 8560-8576, 8940-8941, 8980-8981
子宮体癌	C540-543, 548, 549	8000-8158, 8160-8162, 8170-8231, 8240, 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8560-8576, 8940-8941, 8980, 8981
子宮肉腫	C530-531, 538, 539, 540-543, 548, 549	8890-8896(平滑筋肉腫), 8930-8931 (子宮内膜間質肉腫), 8933 (腺肉腫)
膀胱癌	C670-679	8000-8158, 8160-8162, 8170-8231, 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8560-8576, 8940-8941, 8980-8981
甲状腺乳頭・濾胞癌	C739	8140, 8260, 8290, 8330-8344 (8335/1含), 8350
甲状腺未分化癌	C739	8020, 8021
甲状腺髄様癌	C739	8345, 8346, 8347
胆嚢癌	C23.9, 24.0 (付加因子7001のみ)	8000-8158, 8160-8163, 8170-8231, 8243, 8244, 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8560-8576, 8940-8941, 8980-8981
喉頭癌	C32.0, 32.1, 32.2, 10.1	8000-8158, 8160-8162, 8170-8231, 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8560-8576, 8940-8941, 8980-8981
腎癌	C64.9	8000-8158, 8160-8162, 8170-8231, 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8560-8576, 8940-8941
腎盂尿管癌	C65.9, 66.9	8000-8158, 8160-8162, 8170-8231, 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8560-8576, 8940-8941, 8980-8981

局在		組織形態
卵巣 (卵管、腹膜含、女)	C56.9	8000-8158, 8160-8162, 8170-8231, 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8560-8576, 8600-8670, 8930-8935, 8940-8941, 8950-8973, 8980, 8982-8983, 8990-8991, 9000-9015, 9020, 9040-9044, 9060-9090, 9100-9105, 9110
	C57.0, C48.1, C48.2, C48.8	8000-8158, 8160-8162, 8170-8231, 8246/32-8247/39, 8250-8551, 8560-8576, 8620, 8940-8941, 8980, 9000, 9014-9015, 9060, 9071, 9070, 9072, 9080, 9100, 9085



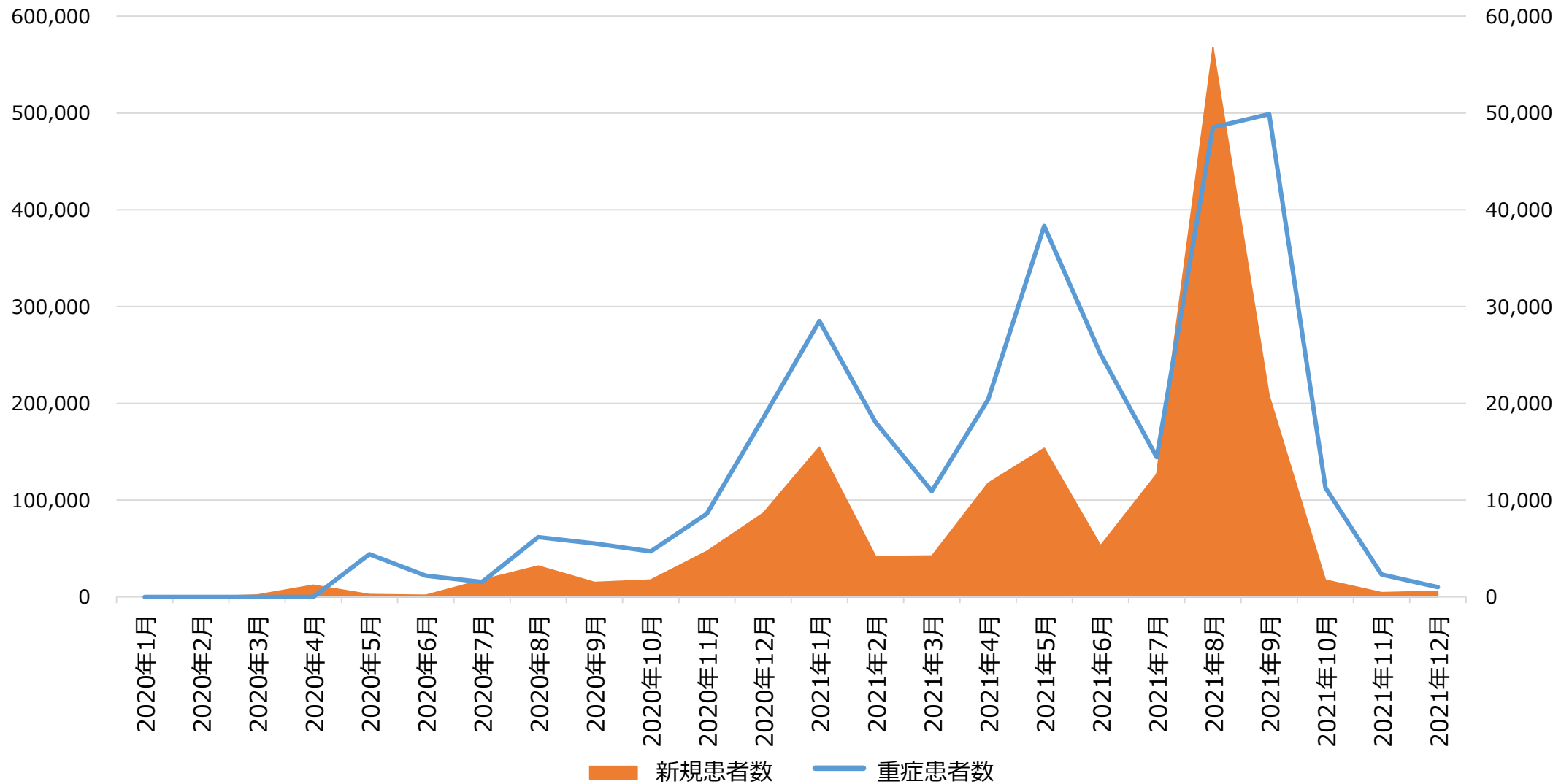
# 前回：2020年症例報告書の内容

- 2016-2019年と2020年の院内がん登録登録数を比較(継続してデータ提供した全施設)
- 登録数は前年比94.1%に減少
- 全部位で5月に大きく減少、8月にやや減少、12月にかけて前年と同様まで回復
- 5月は特定警戒地域でより減少幅が大きかったが、それ以外では差なし
- 検診発見例は5月、8月で減少したが12月にかけて回復  
検診が行われるがんでは特に早期がんの減少率が高い傾向
- 治療登録数は内視鏡治療の減少率が他よりも大きく、5月に最も減少したが、  
その後は12月にかけて例年と同程度まで回復

# 2020-2021年の新型コロナウイルス新規患者数と重症患者数の推移

緊急事態宣言  
流行状況  
主要株

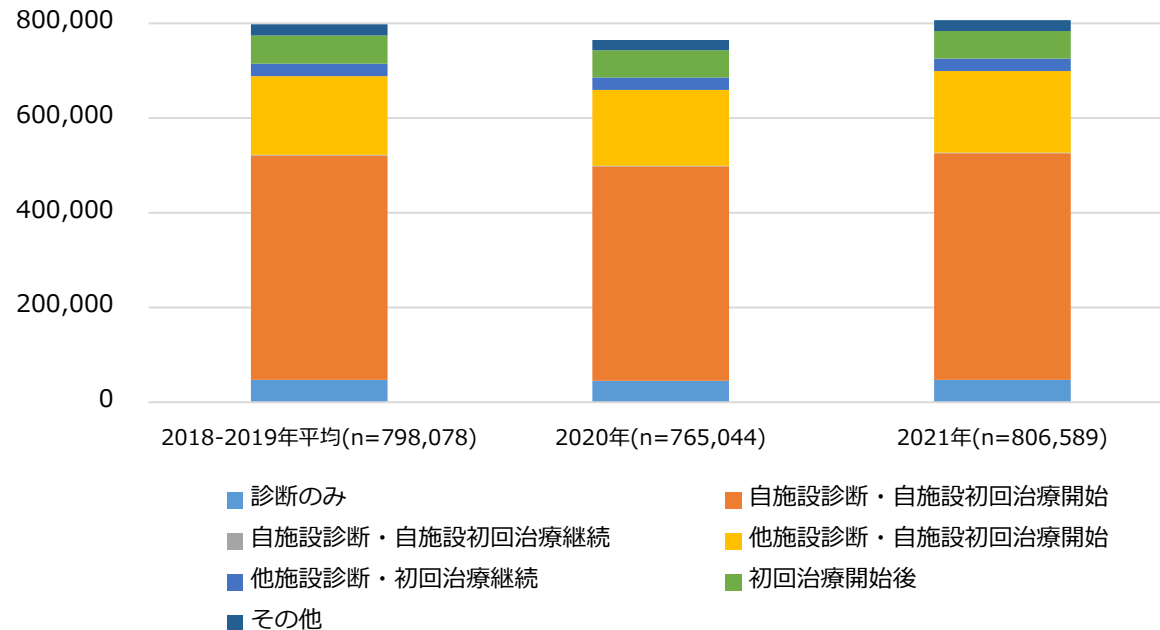
① 第1波 第2波 第3波 第4波 第5波  
従来株 アルファ株 デルタ株



# 今回：2021年拠点病院症例の内訳

- 2021年拠点病院：459施設(このうち小児拠点は6施設)  
全登録患者数：810,154名
- 上記のうち、2018年以降継続してデータ提供があった施設：455施設(小児拠点は6施設)  
対象患者数：806,589名

2018-19年平均 vs 2020年 vs 2021年  
症例登録数(症例区分別)推移

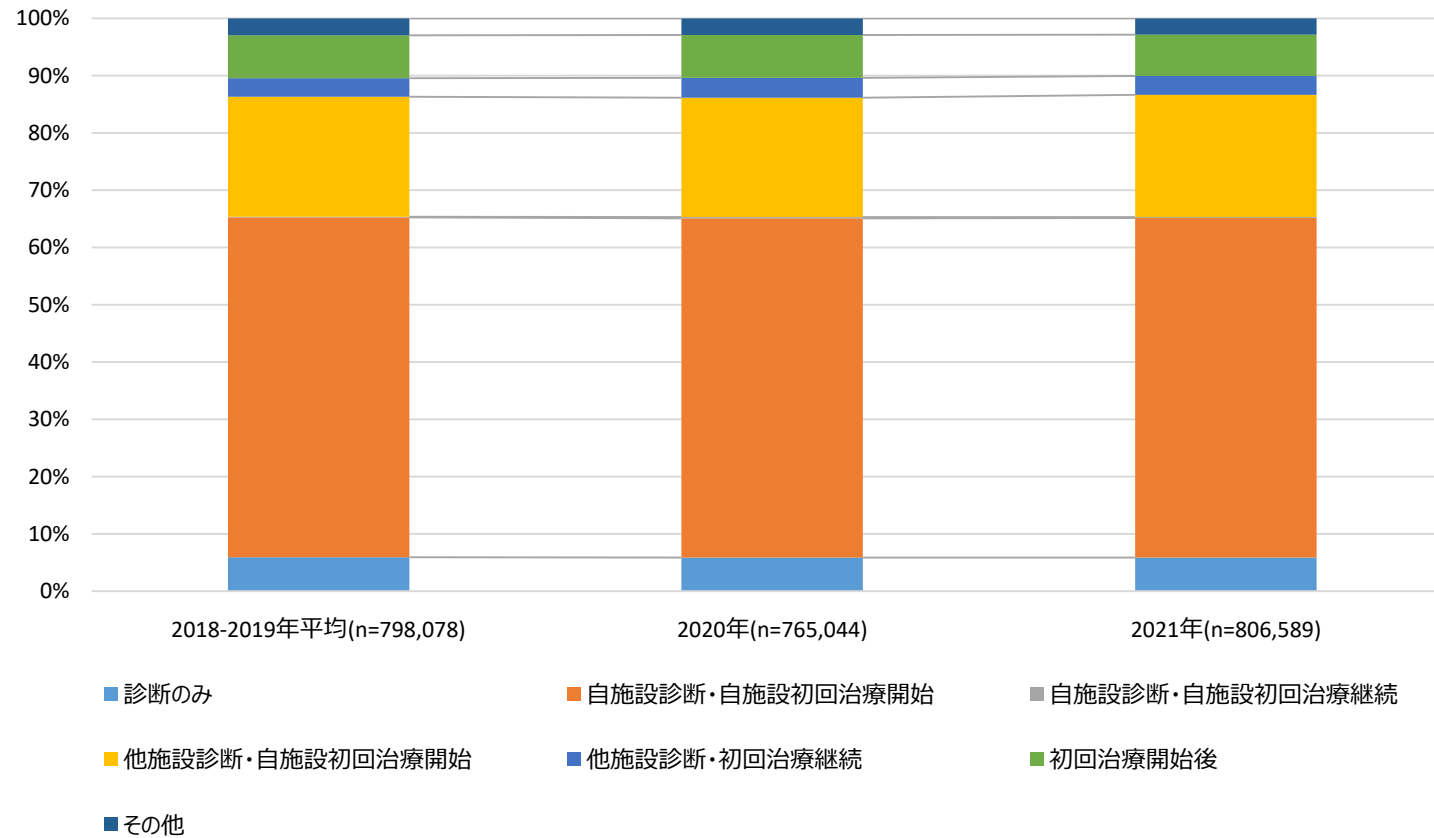


	2020年	2021年
2カ年平均登録数との比	95.9%	101.1%

2018-19年の平均と2020,21年を比較  
→2020年で減少し2021年は2018-19年並みに回復傾向

# 1. 症例区分別登録数の推移

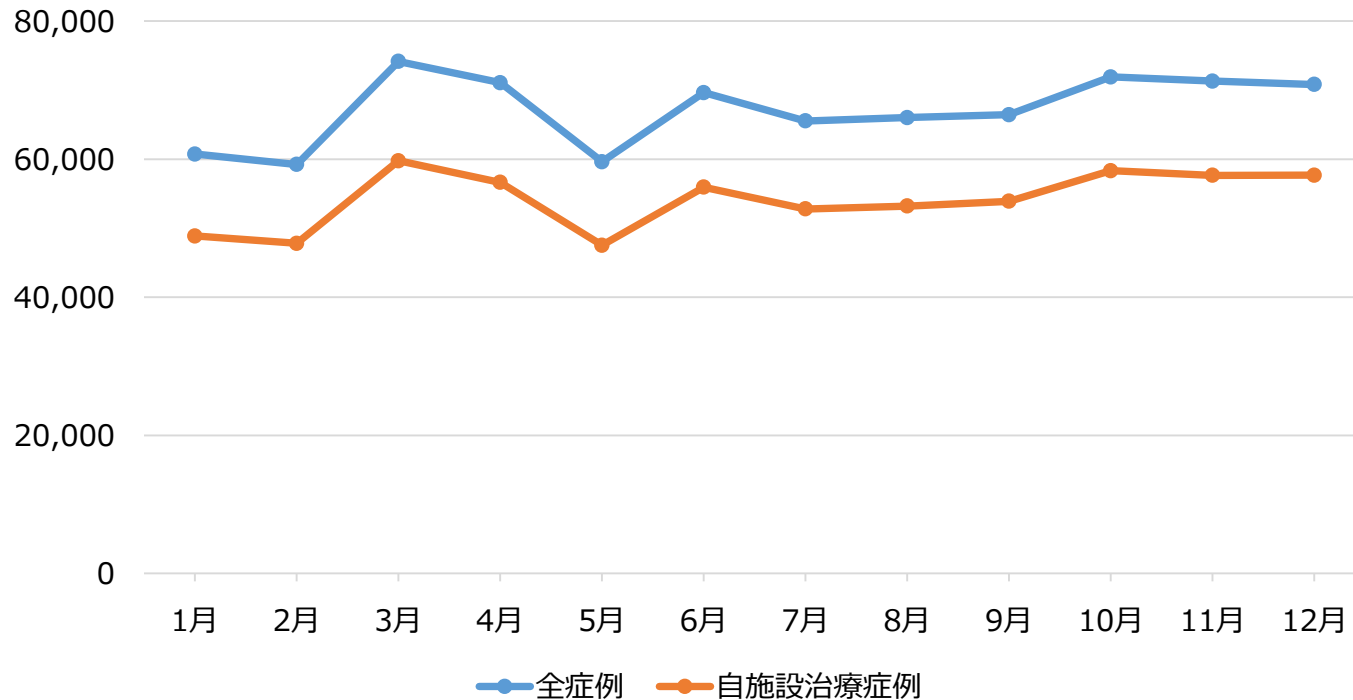
2018-19年平均 vs 2020年 vs 2021年症例区分別割合推移



2018-19年の平均と2020年,2021年の比較で、症例区分の割合は変化なし  
⇒拠点・小児拠点における症例区分はコロナ禍であっても登録の割合に変化はない

## 2. 診断月別登録数の推移

- 全がんにおける、診断月別登録数の推移(全症例、自施設初回治療開始例)



全症例	806,589名
自施設初回治療開始例	650,260名

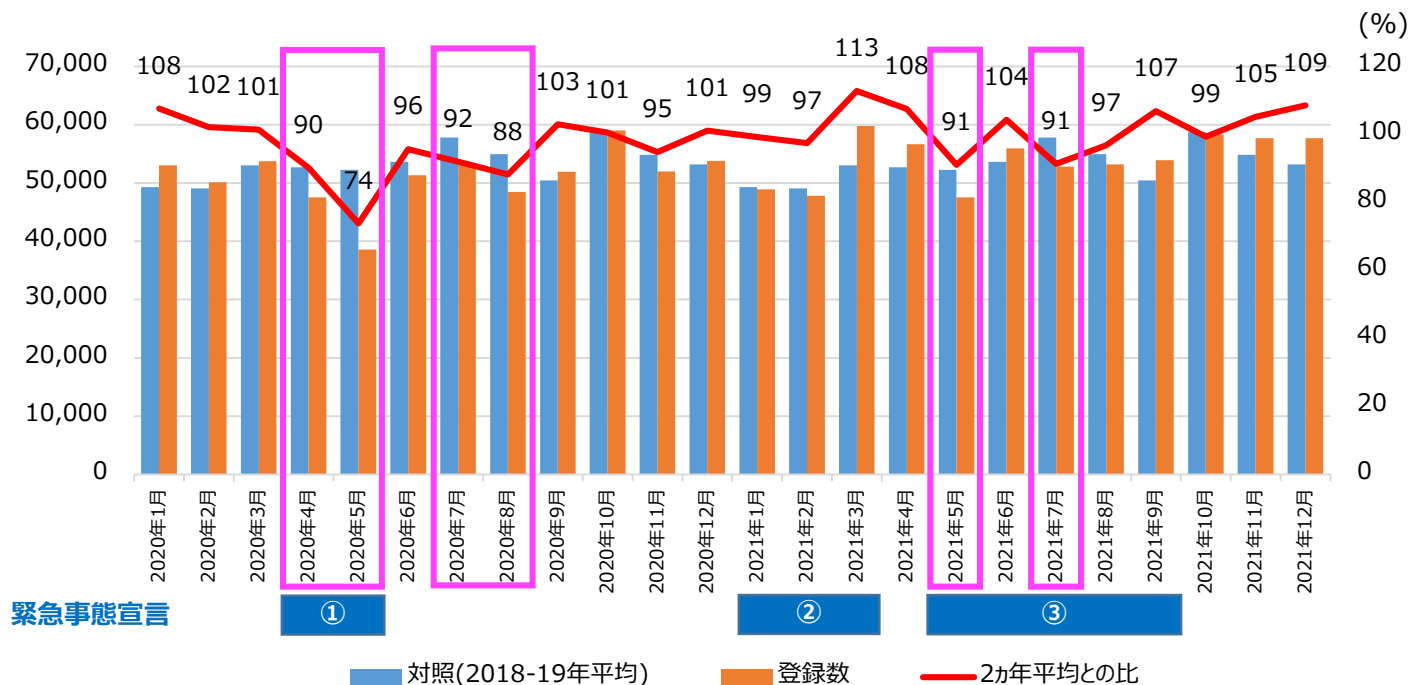
全症例と自施設初回治療開始例(症例区分 20/30)とで診断月別登録数の傾向に変わりはない



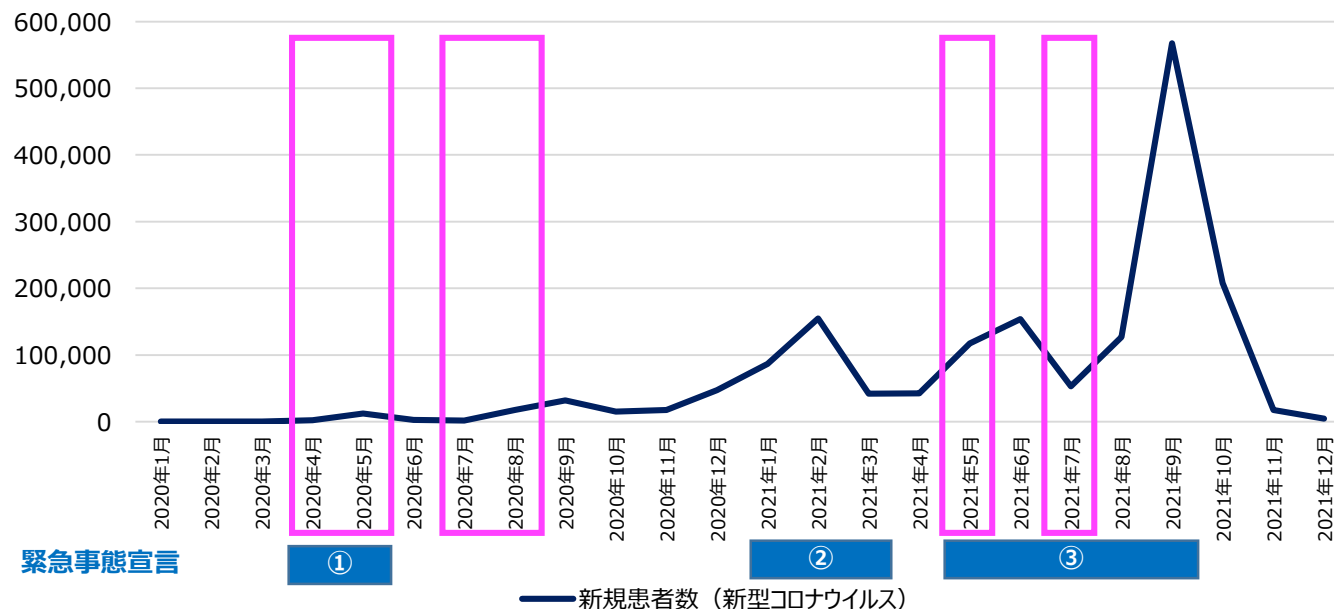
以降は、自施設初回治療開始例に限定して分析

## 2. 診断月別登録数\*の推移(新型コロナ患者数推移を参照)

\*自施設初回治療開始例に限定



全がん登録数	2018-19年平均との比
2020年	95.7%
2021年	101.6%



- 新規がん患者数が最も減少したのは2020/4-5(緊急事態宣言①期間)
- 2020/7-8、2021/5、7はやや減少
- 2021/9以降は減少なし

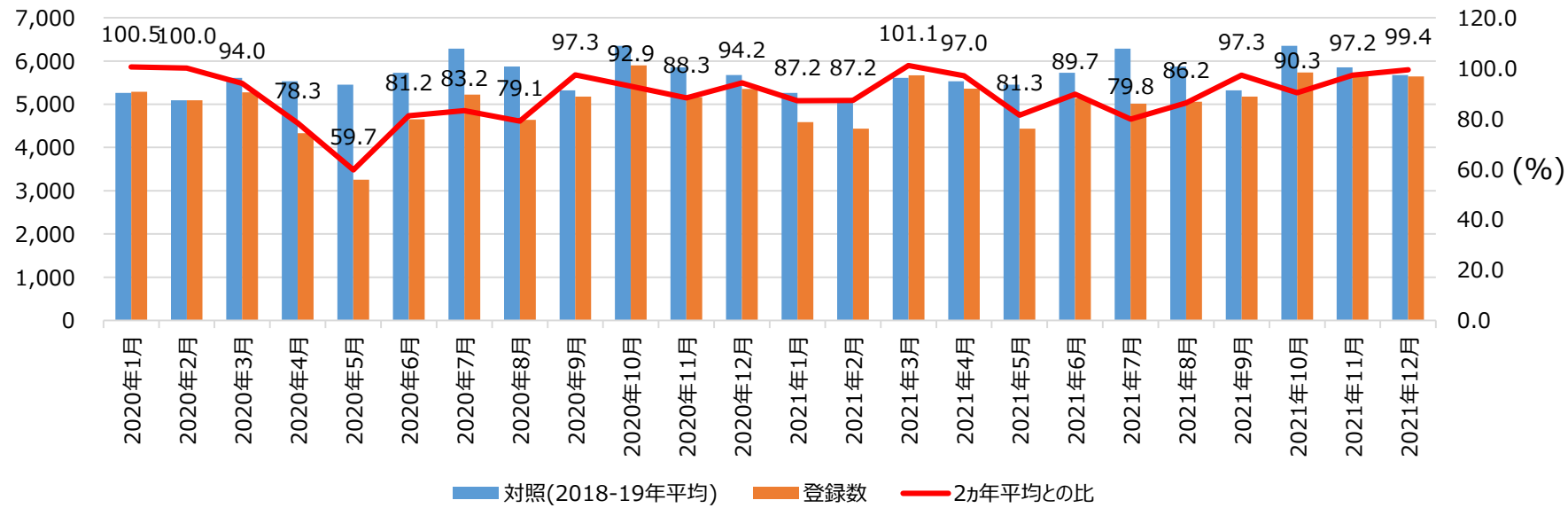
⇒緊急事態宣言②と新規がん患者数減少は関係なし  
 ⇒コロナ患者数が増加するとやや新規がん患者数が減少する傾向  
 ⇒コロナ患者数と新規がん患者の推移を単一の理由で説明することは困難

## 2. 診断月別登録数の推移（部位別）

- 2020年に2018-19年の2カ年平均よりも5%以上減少した部位：  
口腔、食道、胃、大腸、喉頭、子宮頸部、前立腺、脳神経、甲状腺、形質細胞
- 2021年は多くの部位で2カ年平均程度まで登録数は回復
  - 2021年に2カ年平均より5%以上減少した部位：胃、喉頭
  - 2021年に2カ年平均より5%以上増加した部位：  
膵臓、乳房、子宮体部、腎盂尿管、膀胱、白血病

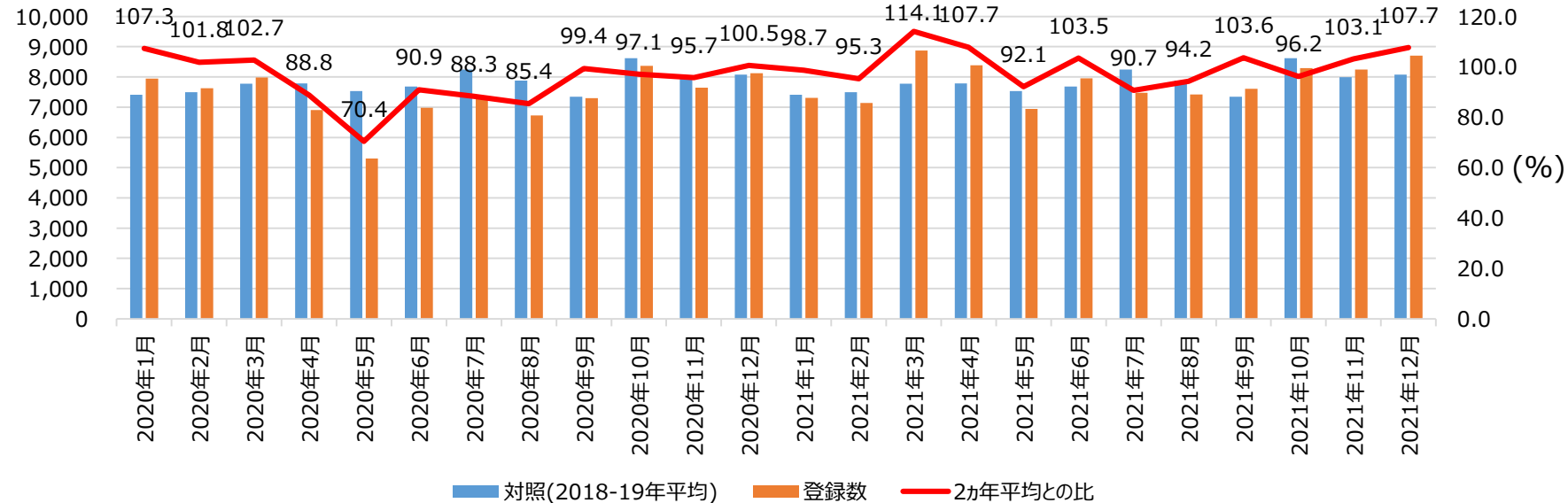
以下の部位について2020-2021年の登録数推移をグラフで示す  
対策型がん検診推奨部位：胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部  
上記以外で登録数が多い：膵臓、前立腺  
上記以外で2021年も減少：喉頭

# 胃 (C16)



全登録数	2018-19年平均との比
2020年	87.2%
2021年	91.1%

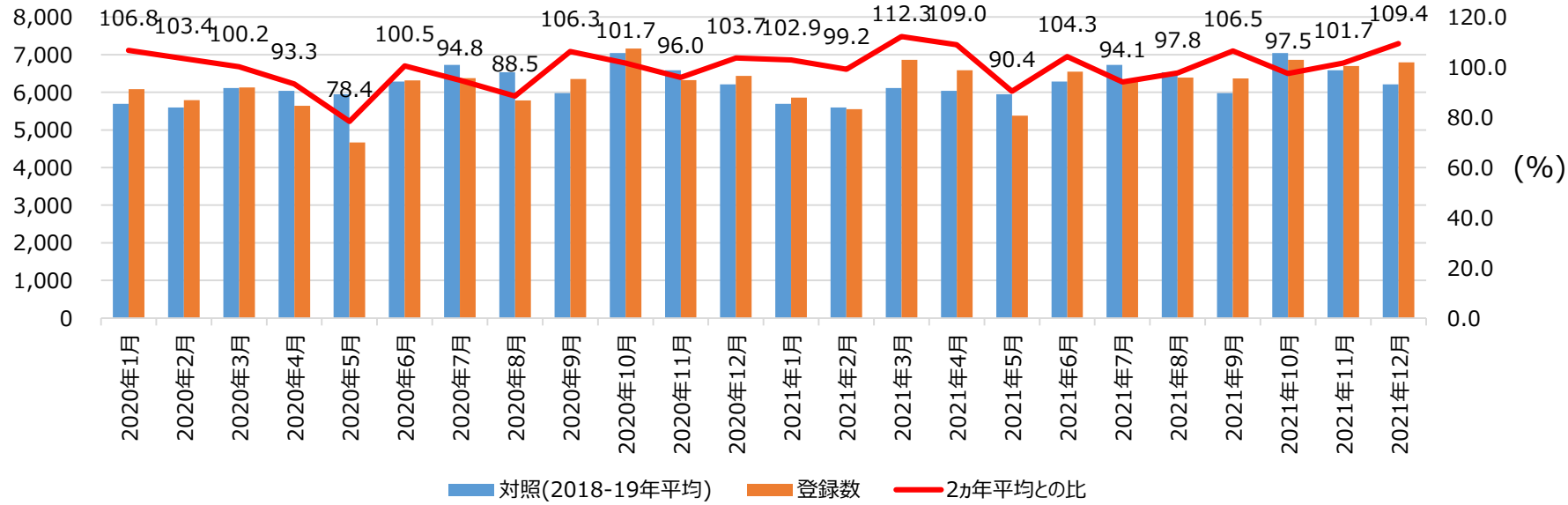
# 大腸 (C18-20)



全登録数	2018-19年平均との比
2020年	94.0%
2021年	100.5%

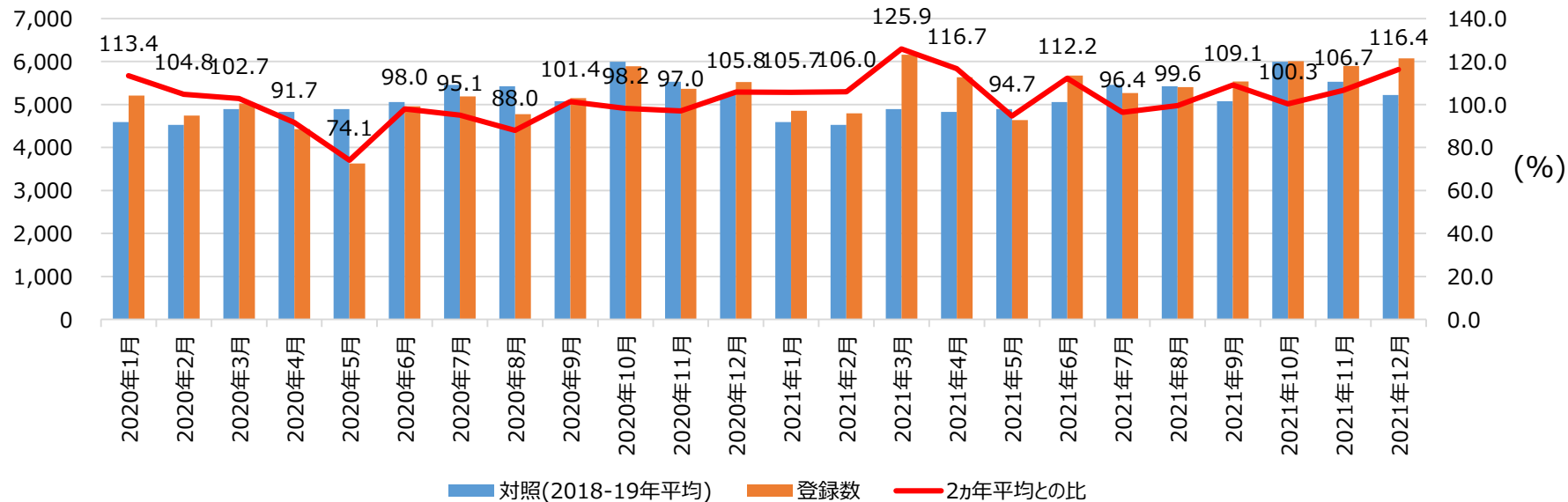


# 肺 (C33,34)



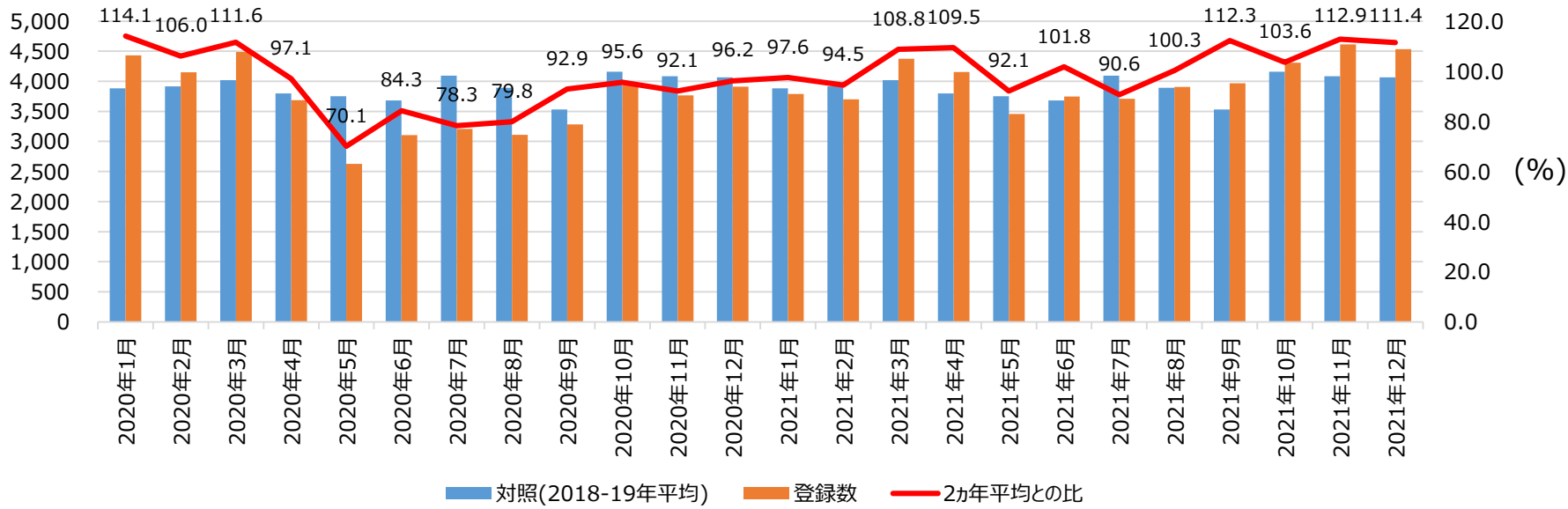
全登録数	2018-19年平均との比
2020年	97.7%
2021年	102.0%

# 乳房 (C50)



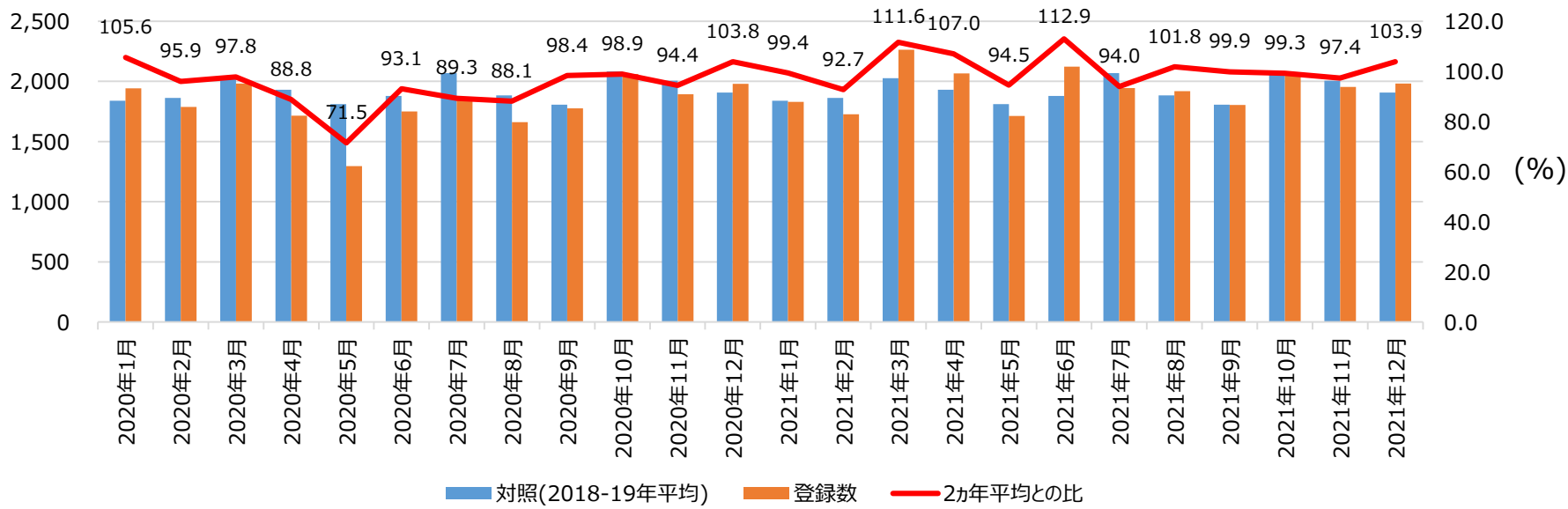
全登録数	2018-19年平均との比
2020年	97.4%
2021年	107.2%

# 前立腺 (C61)



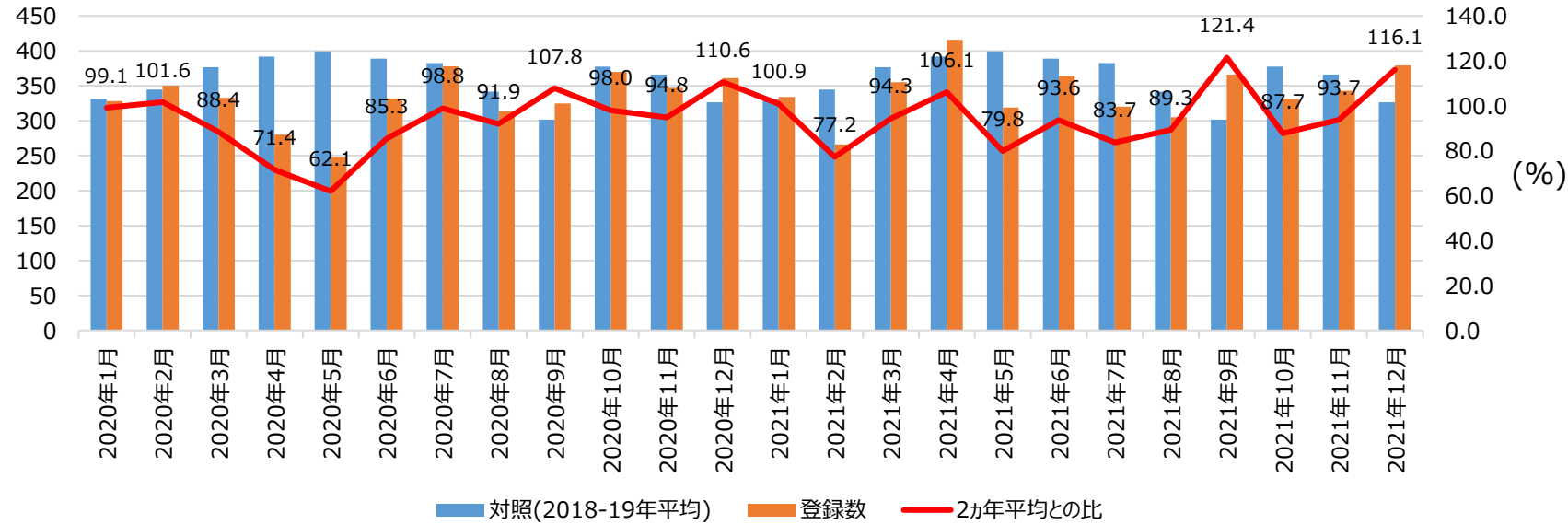
全登録数	2018-19年平均との比
2020年	93.3%
2021年	102.9%

# 子宮頸 (C53)



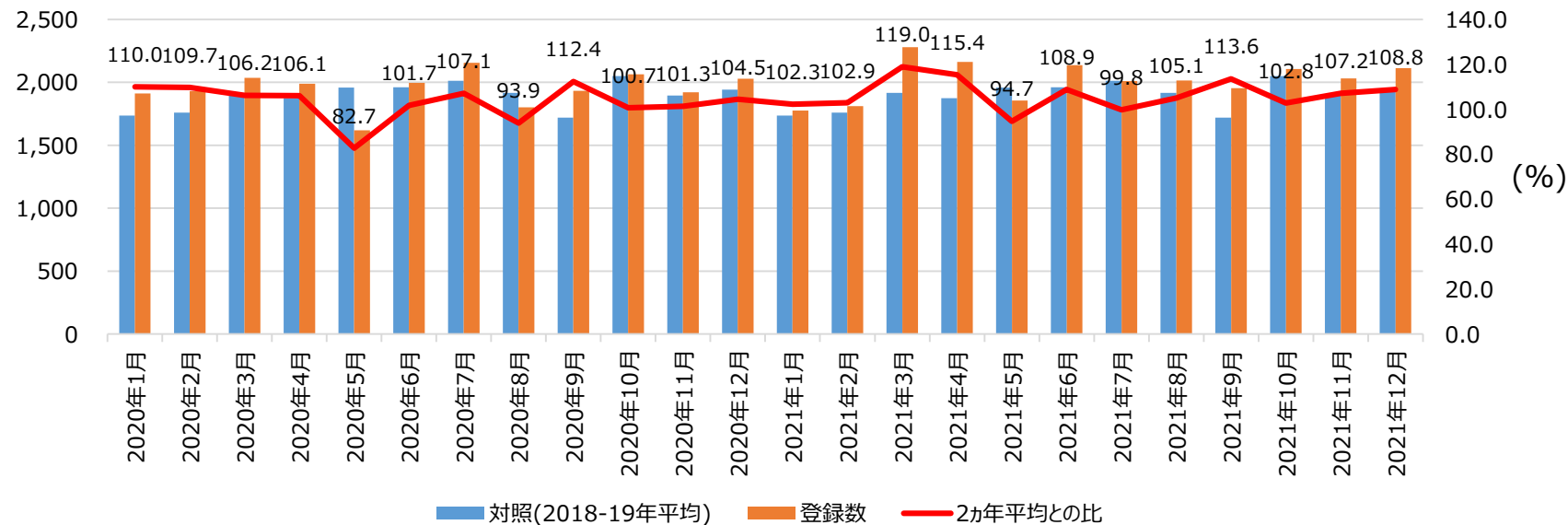
全登録数	2018-19年平均との比
2020年	93.9%
2021年	101.2%

# 喉頭 (C16)



	登録数	2018-19年平均との比
2020年	3,966	91.6%
2021年	4,098	94.7%

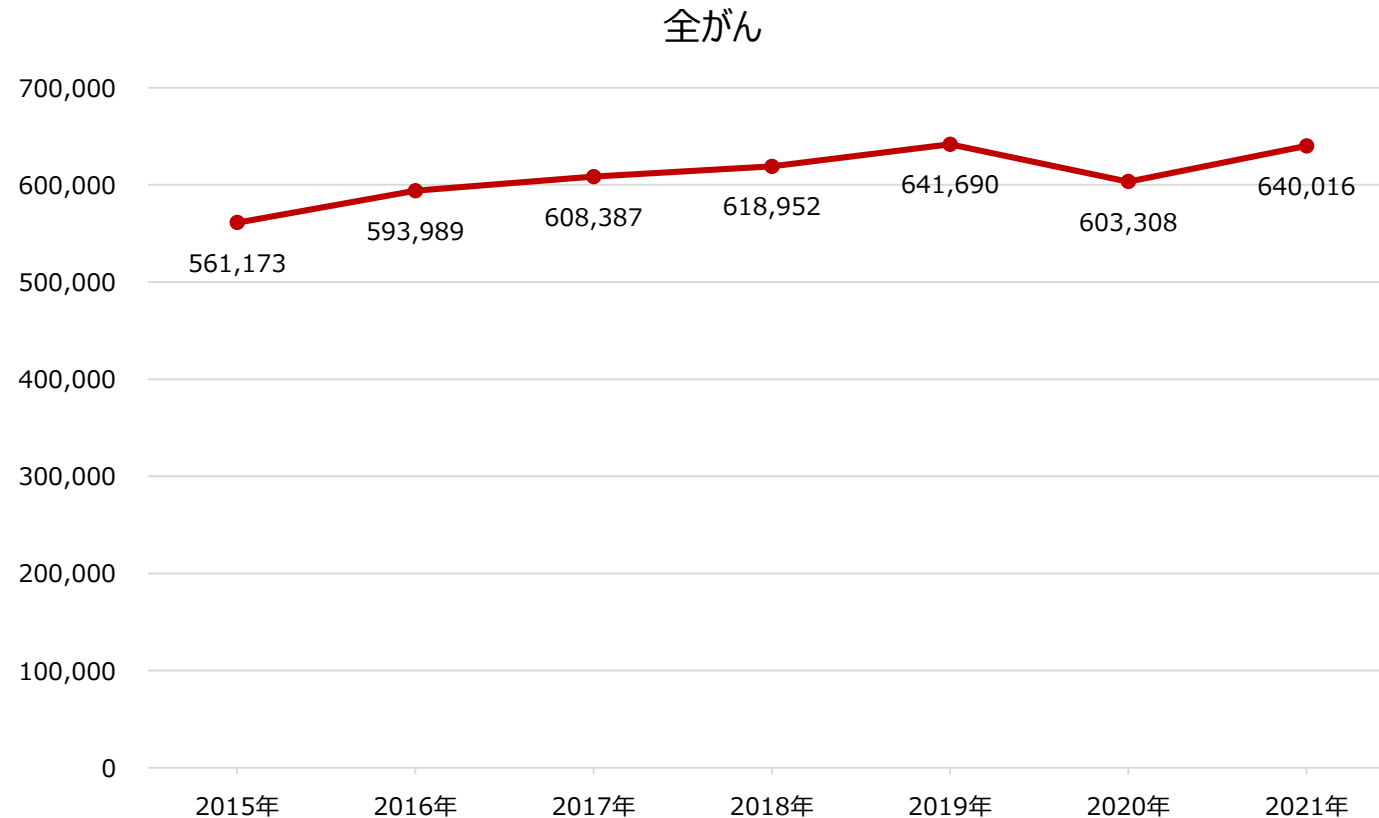
# 膵臓 (C25)



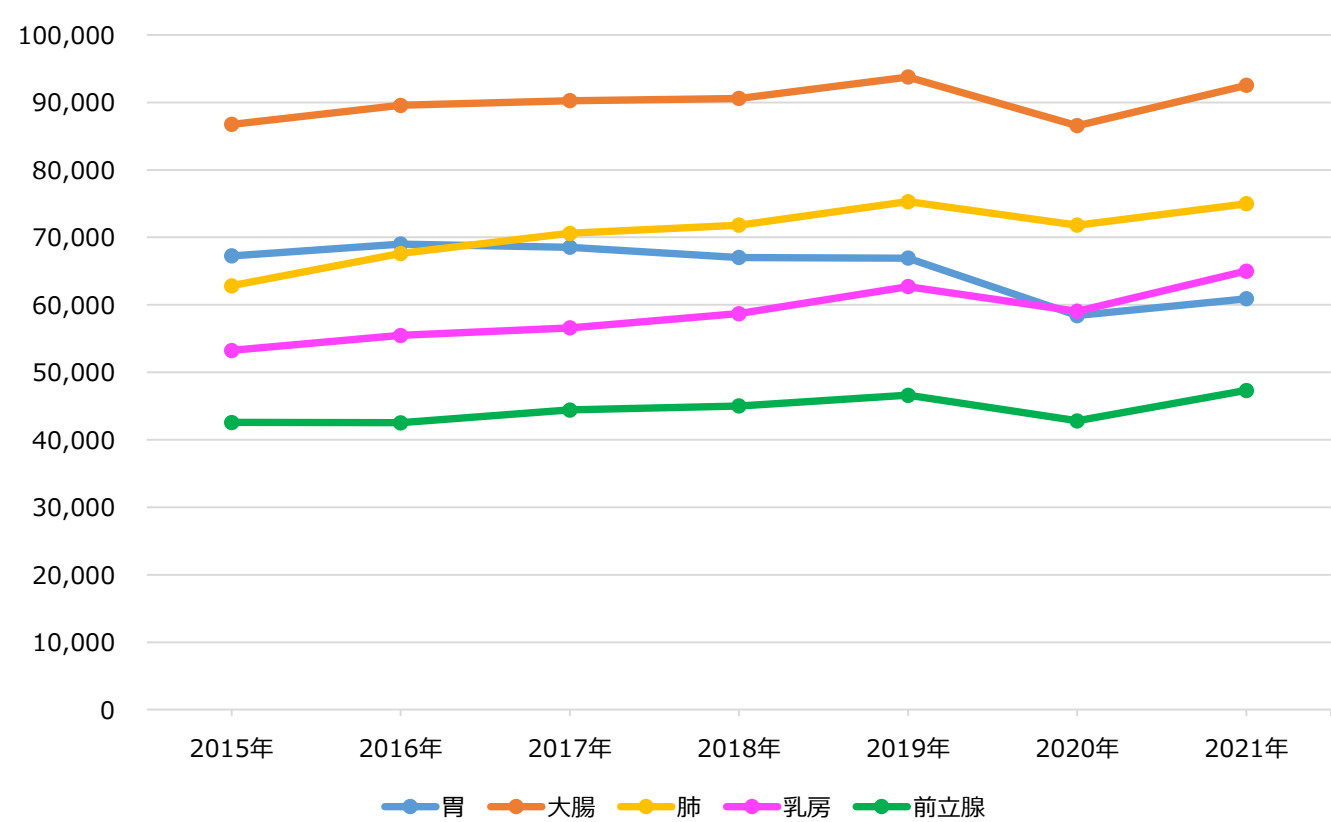
	全登録数	2018-19年平均との比
2020年		102.8%
2021年		106.6%

# 2015-2021年における局在別がん登録数の推移

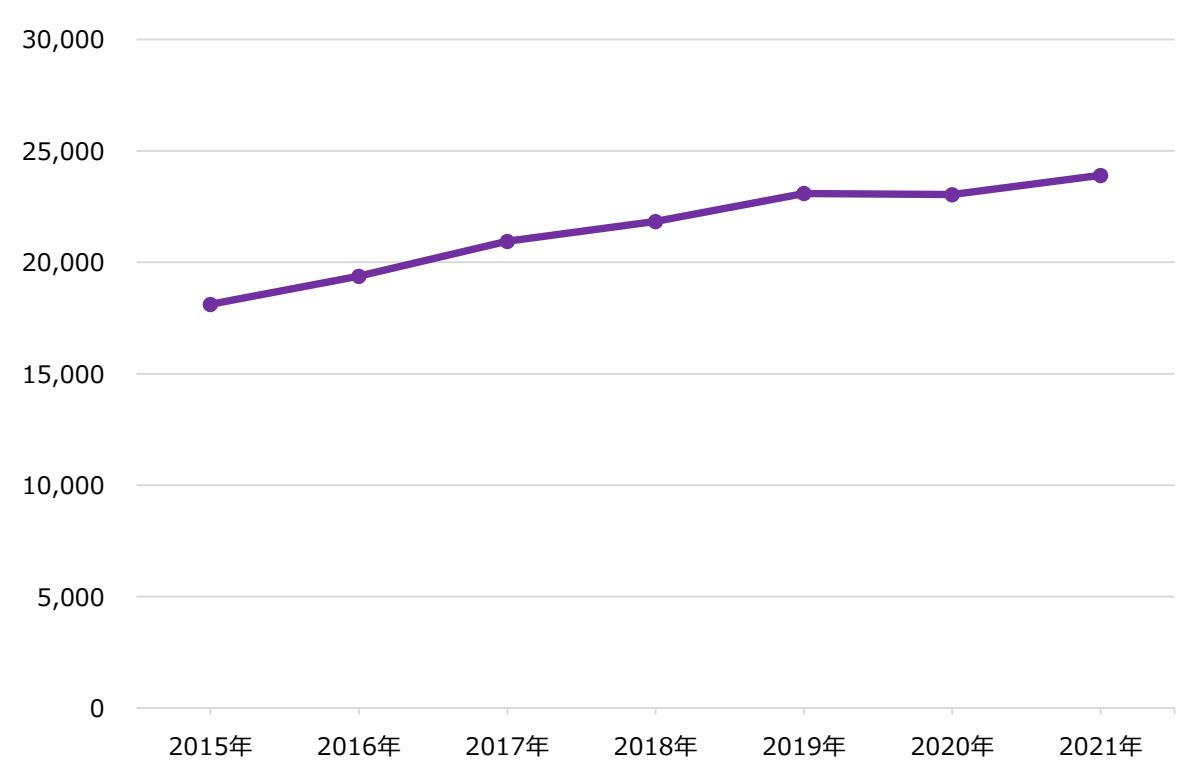
- 2021年症例のデータ登録を行った拠点病院・小児拠点病院で、2015年ー2021年まで継続して院内がん登録全国集計にデータ提供があった施設に限定  
→全442施設
- 全がん、登録数の多いがん(胃、大腸、肺、乳房、前立腺、膵臓)について分析



### 胃、大腸、肺、乳房、前立腺の推移



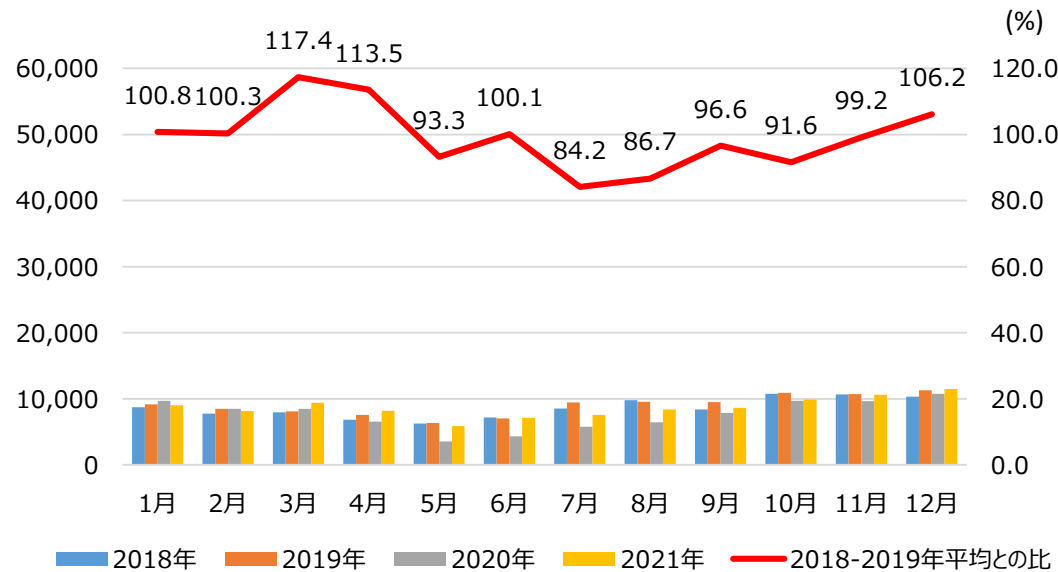
### 膵臓の推移



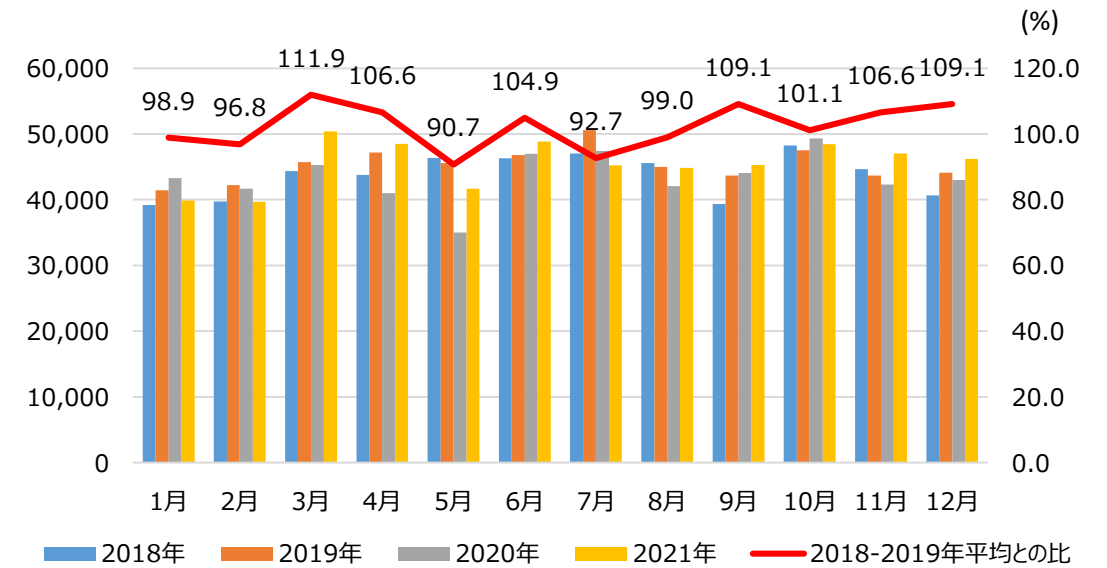
# 3. 発見経緯別登録数の推移

全がん

検診発見例



非検診発見例



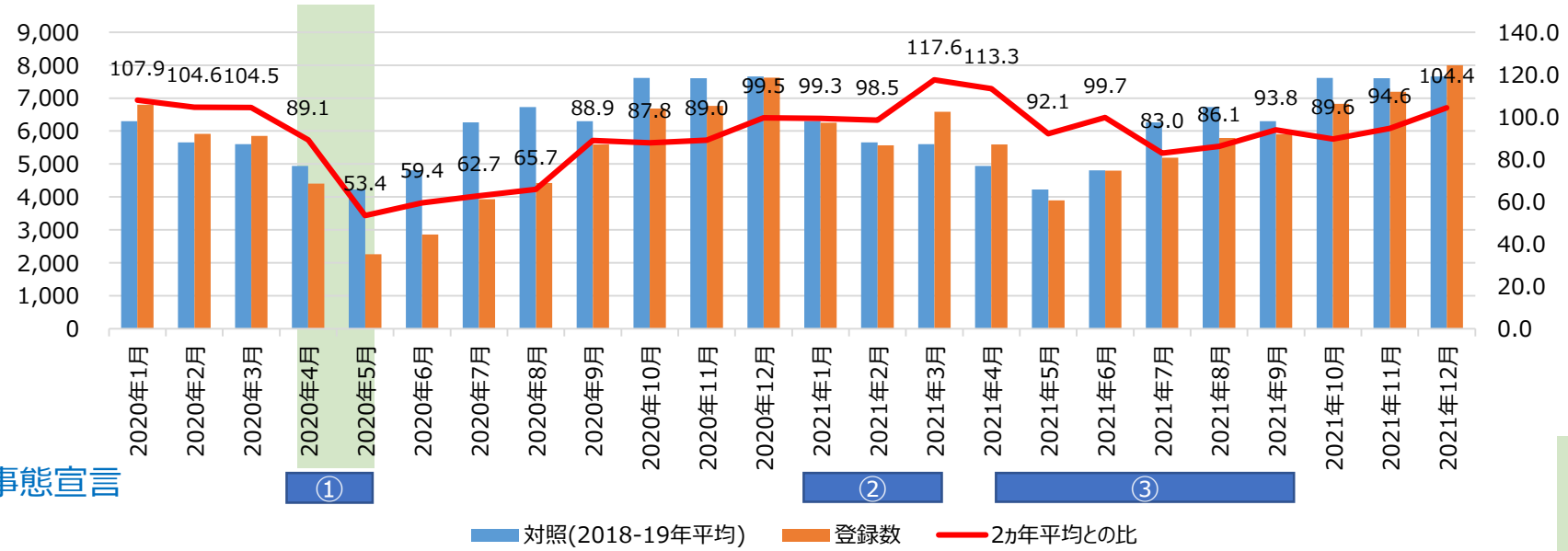
	登録数	2018-19年平均との比
2020年	91,317	86.4%
2021年	104,366	98.8%

	登録数	2018-19年平均との比
2020年	521,397	97.6%
2021年	545,894	102.2%

次に、がん検診推奨部位について2020-2021年の登録数推移をグラフで示す  
(胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部)

# がん検診推奨部位\*に限定した検診発見例の推移(新型コロナ患者数推移を参照)

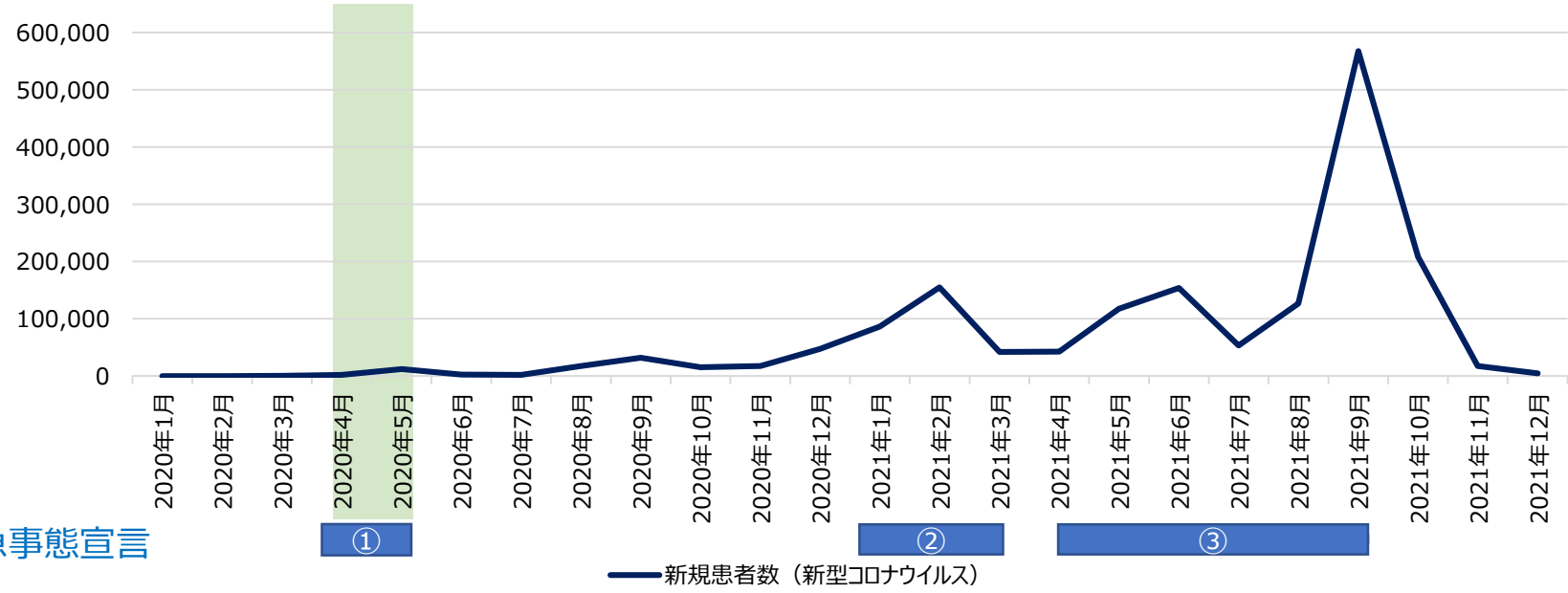
\*胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部



全体	2018-19年平均との比
2020年	85.6%
2021年	97.2%

「新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言を踏まえた健康増進事業の実施に係る対応について」の発出期間(2020/4/14-5/25)

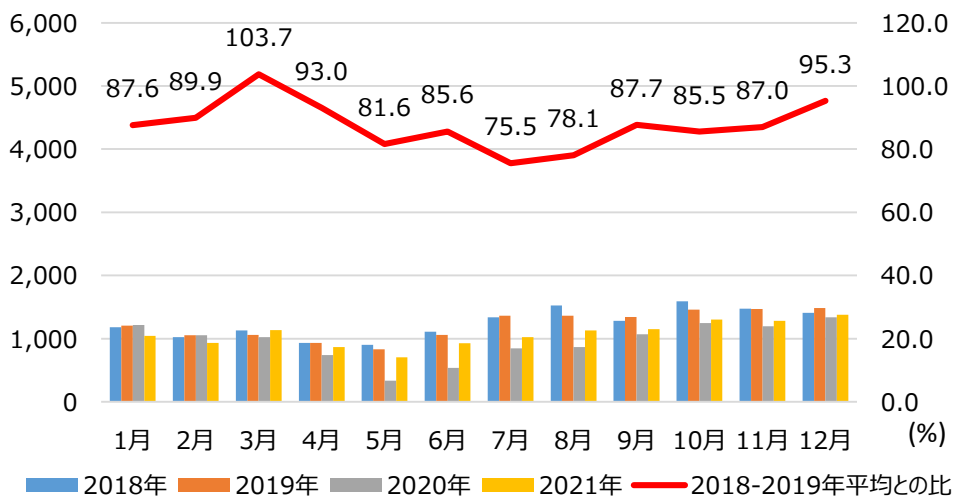
緊急事態宣言



緊急事態宣言

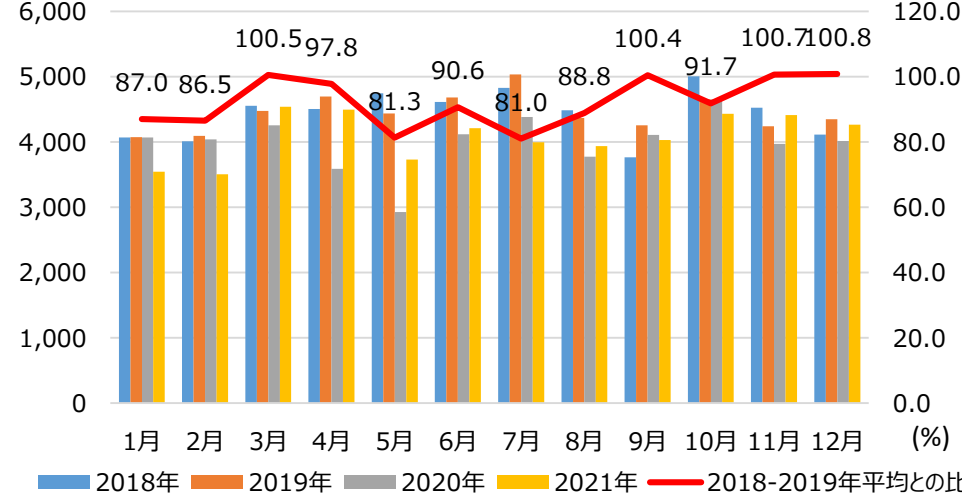
### 検診発見例

	2カ年平均との比
2020年	77.7%
2021年	87.3%



### 非検診発見例

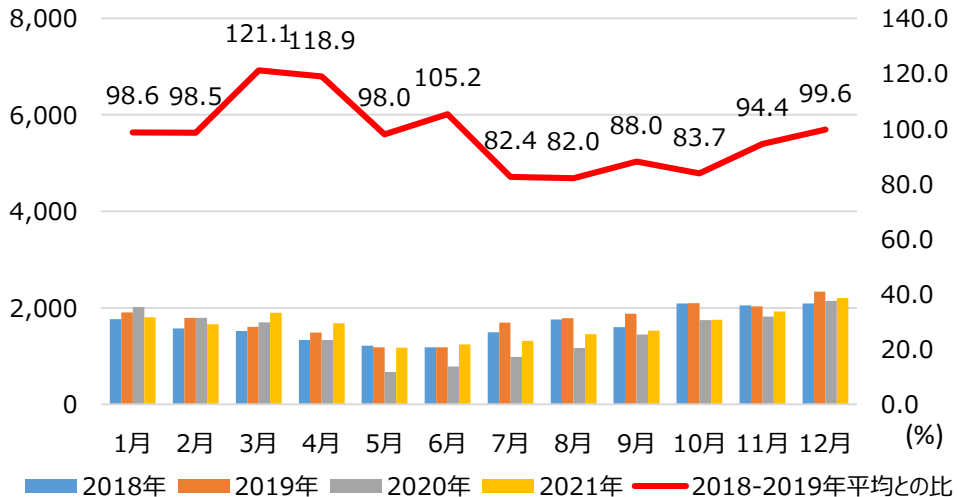
	2カ年平均との比
2020年	89.9%
2021年	92.1%



### 大腸 (C18-20)

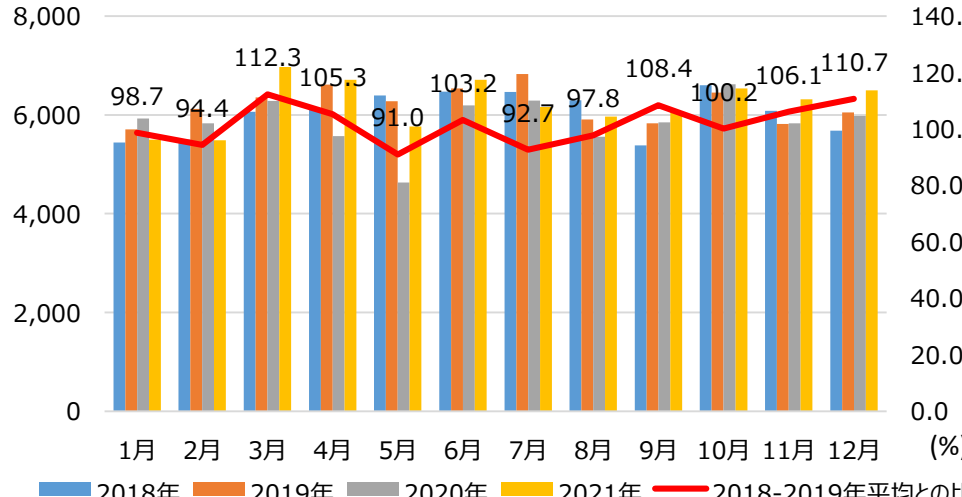
### 検診発見例

	2カ年平均との比
2020年	86.7%
2021年	96.6%



### 非検診発見例

	2カ年平均との比
2020年	96.0%
2021年	101.6%





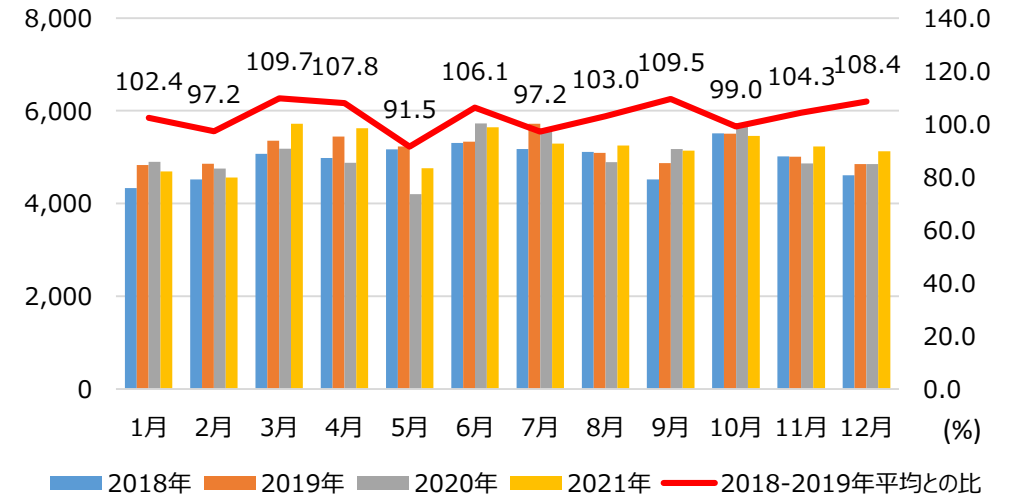
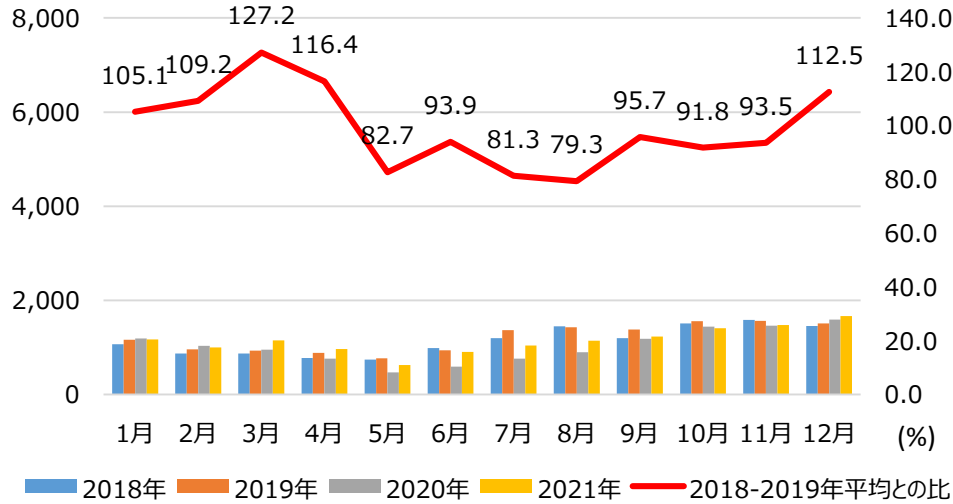
### 検診発見例

	2カ年平均との比
2020年	87.6%
2021年	97.8%

### 非検診発見例

	2カ年平均との比
2020年	100.0%
2021年	102.9%

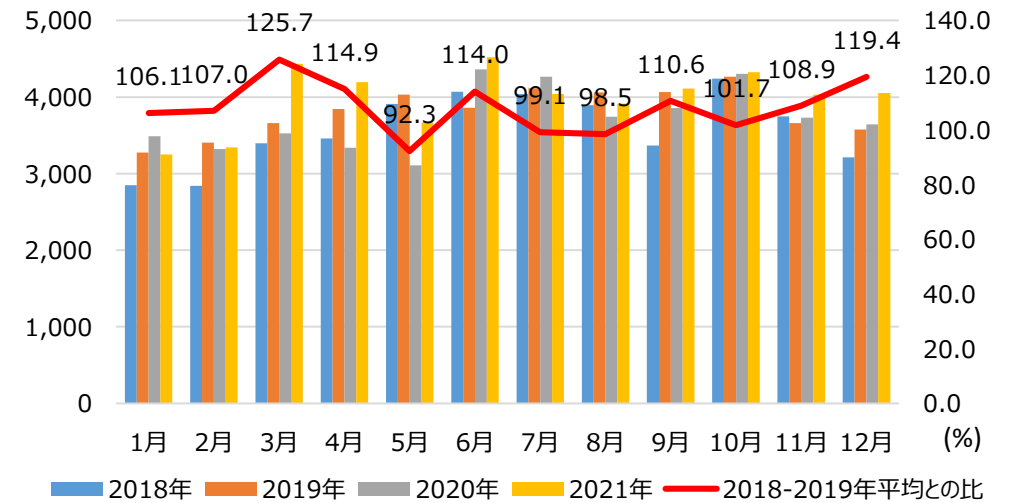
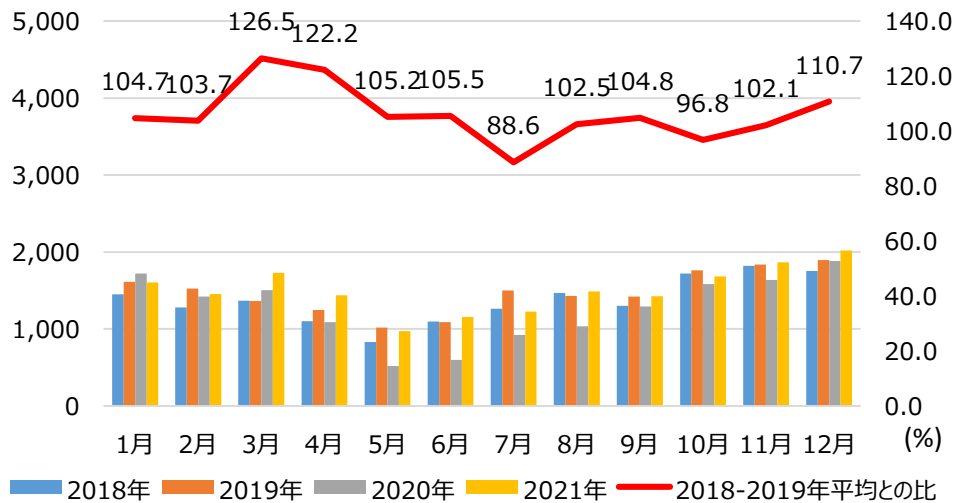
## 肺 (C33,34)



	2カ年平均との比
2020年	89.0%
2021年	105.7%

	2カ年平均との比
2020年	100.6%
2021年	107.8%

## 乳房 (C50)



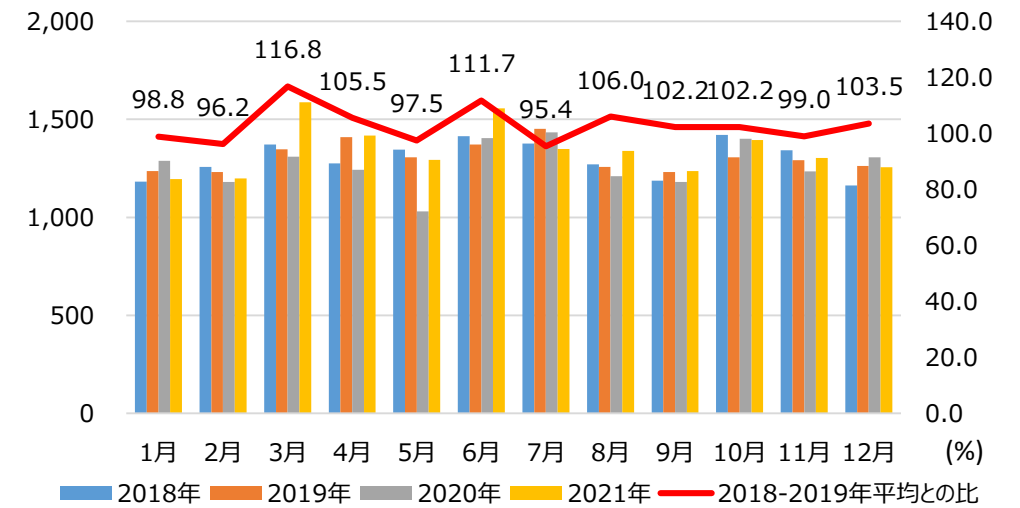
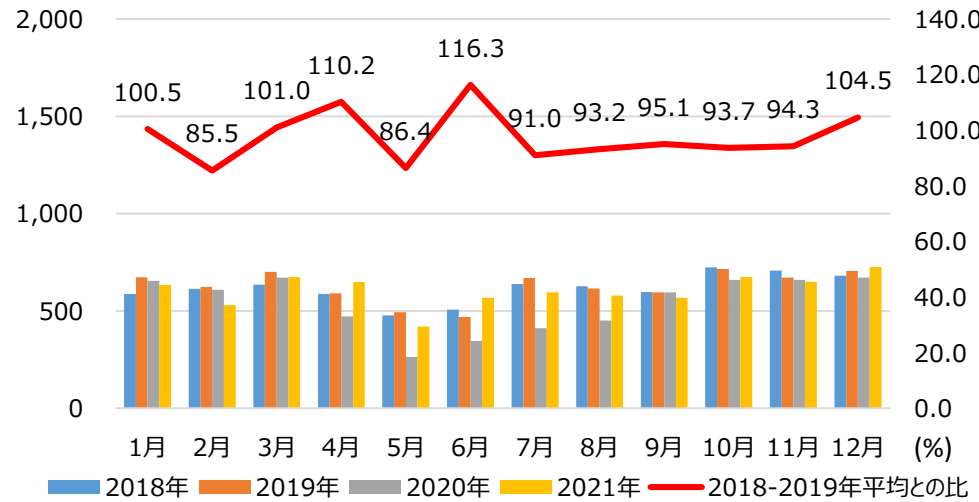
## 検診発見例

	2か年平均との比
2020年	86.8%
2021年	97.5%

## 非検診発見例

	2か年平均との比
2020年	97.2%
2021年	103.0%

### 子宮頸部 (C53)



- 検診発見例は、  
胃、大腸、肺、子宮頸部で減少  
乳房は減少なし
- 非検診発見例は例年と変化なし  
胃のみ減少

## 4. UICC TNM分類総合病期\*別登録数の推移

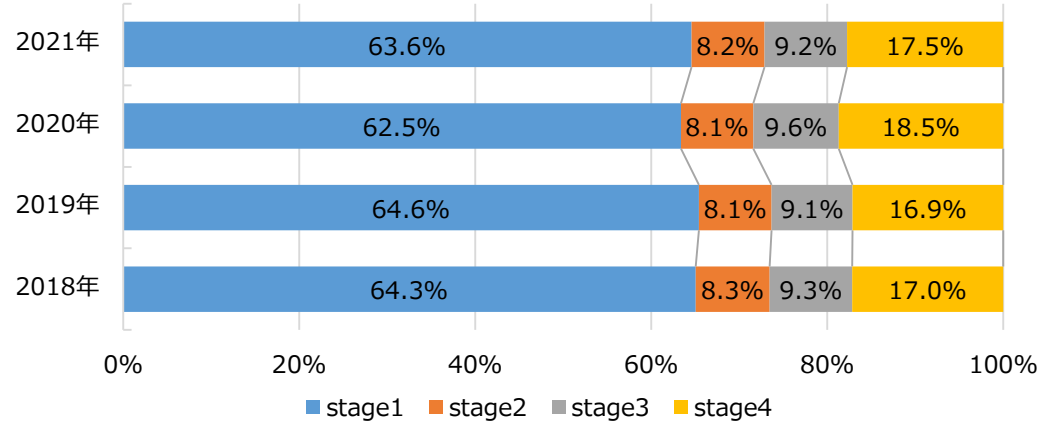
- 病期別に登録数の推移を確認するにあたり、登録数の多いがん種について検討  
⇒胃がん、大腸がん、非小細胞性肺がん、乳がん、前立腺がん、子宮頸がん
- 先の分析で登録数が増加していた膵がんについても検討  
(2021年にも登録数が減少した喉頭がんは患者数が少ないため除外)
- 上記のがん種でstage\*\*別割合を経年比較

\*総合病期：術後病理学的病期を第一優先とし、術前治療が行われた術後病理学的病期の適用外及び術後病理学的病期の不詳例、観血的治療を行っていない例では、治療前病期を用いることで、がんの治療開始時点での病期を指す指標として算出

\*\*Stage(病期)：がんの進行度(広がり)を国際的な基準であるUICC TNM分類に基づいてがん種毎に分類したもの  
一般に、がんが粘膜内にとどまる状態がstage0であり、進行に伴って他臓器に転移がある状態がstage4<sup>26</sup>

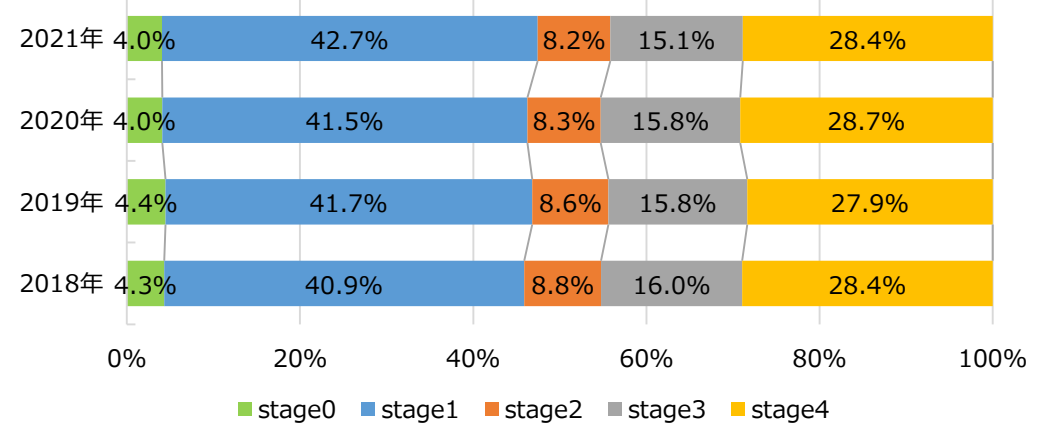
# 各stageが占める割合の比較

## 胃がん



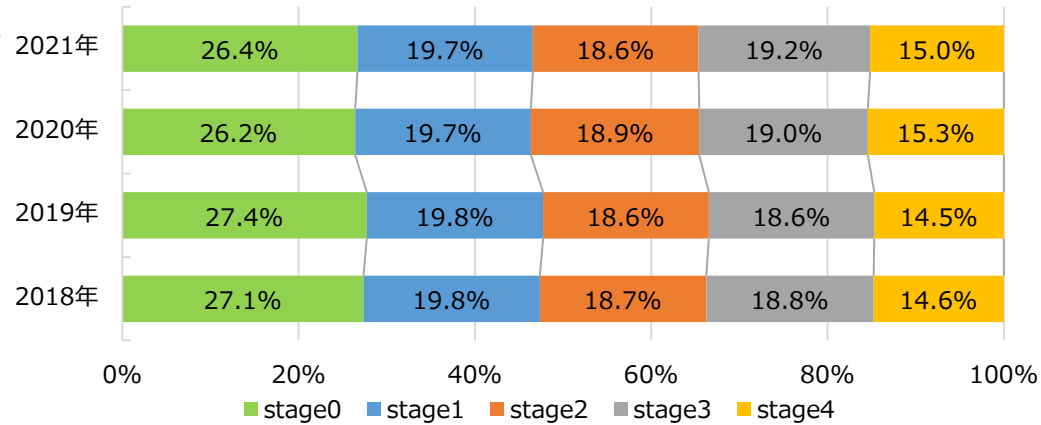
	stage1	stage2	stage3	stage4
2021年と2か年平均との差	-0.8%	0.0%	0.1%	0.5%

## 非小細胞性肺がん



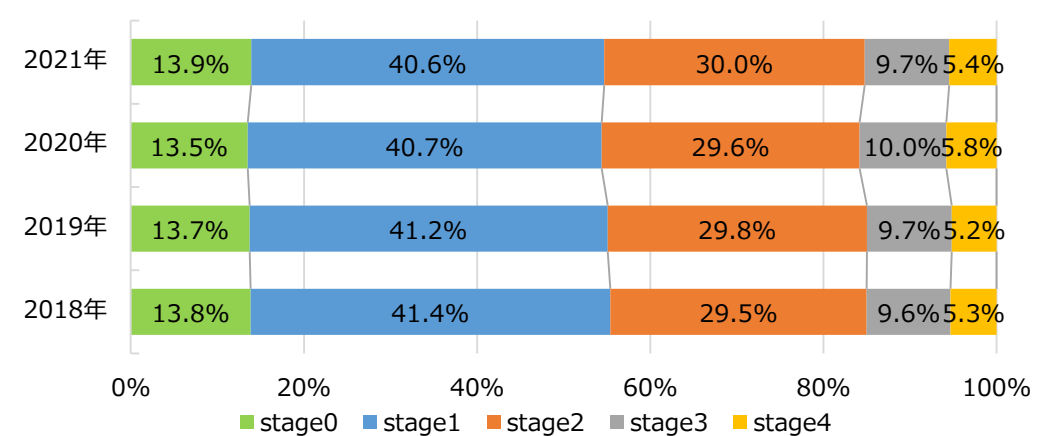
	stage0	stage1	stage2	stage3	stage4
2021年と2か年平均との差	0.3%	1.4%	-0.4%	-0.9%	0.2%

## 大腸がん



	stage0	stage1	stage2	stage3	stage4
2021年と2か年平均との差	-0.9%	-0.1%	0.0%	0.5%	0.5%

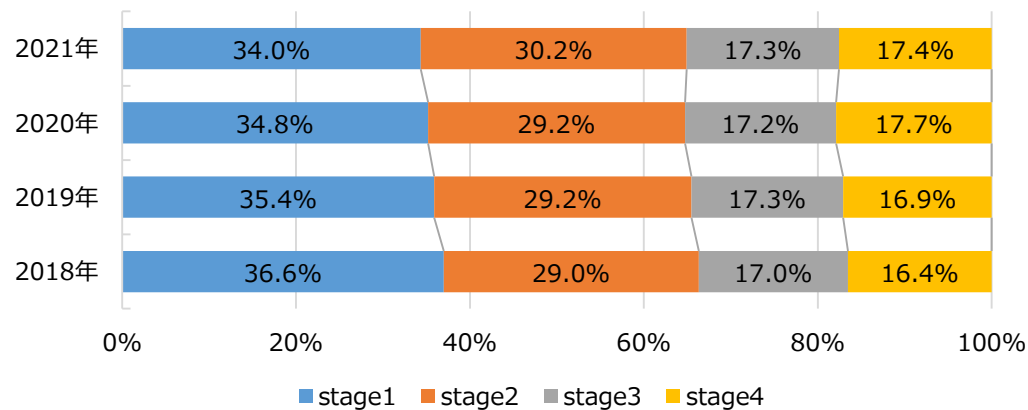
## 乳がん



	stage0	stage1	stage2	stage3	stage4
2021年と2か年平均との差	0.1%	-0.6%	0.3%	0.0%	0.2%

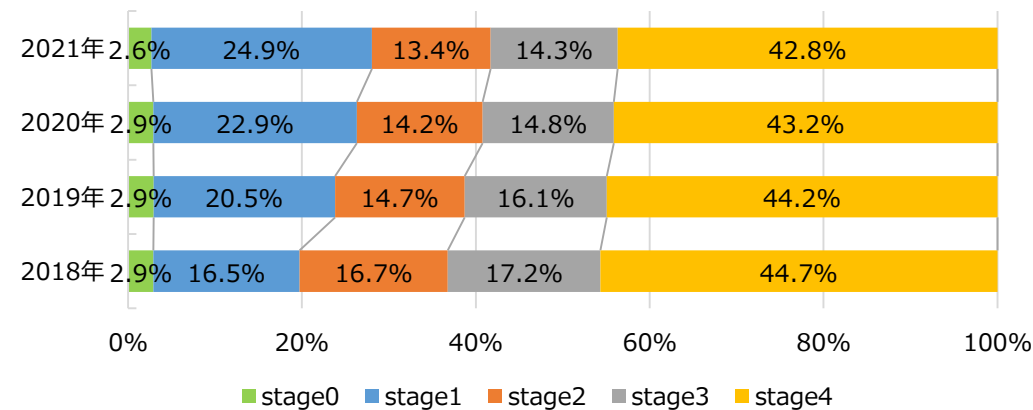
\* 2021年の割合が2018-19年の2か年平均よりも0.6%以上増減している場合に赤字とした

## 前立腺がん



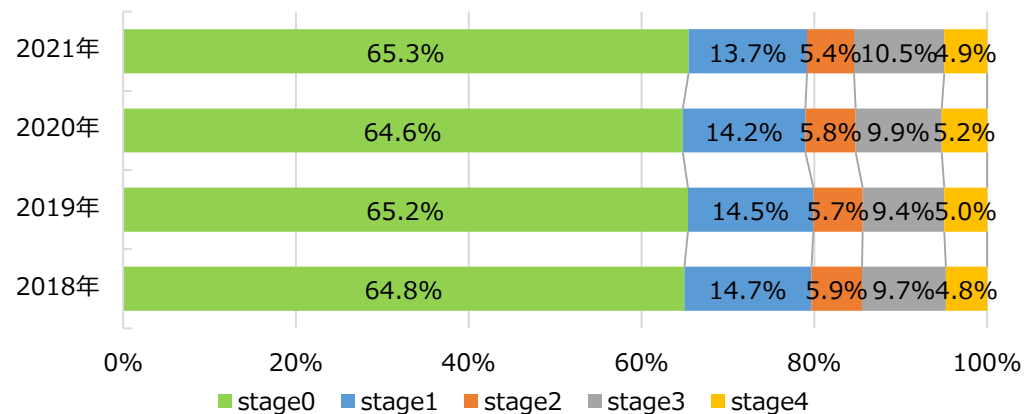
	stage1	stage2	stage3	stage4
2021年と2か年平均との差	-2.0%	1.1%	0.2%	0.8%

## 膵がん



	stage0	stage1	stage2	stage3	stage4
2021年と2か年平均との差	-0.2%	6.3%	-2.3%	-2.3%	-1.6%

## 子宮頸がん



	stage0	stage1	stage2	stage3	stage4
2021年と2か年平均との差	0.3%	-0.9%	-0.4%	0.9%	0.1%

- 胃がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんは2018-19年と比較して、stage0/1などの割合がやや減少
- 前立腺がんはstage1の割合が減少し、stage2/4が増加
- 膵がんはstage1の割合が増加し、それ以外は減少
- 非小細胞性肺がんはstage1の割合が増加

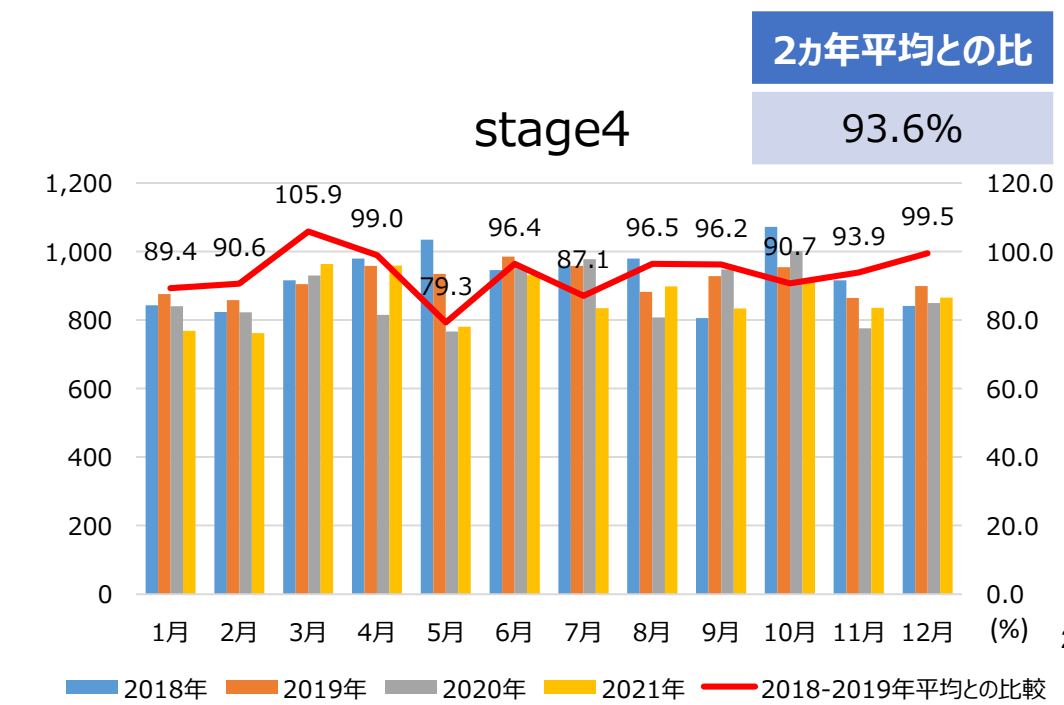
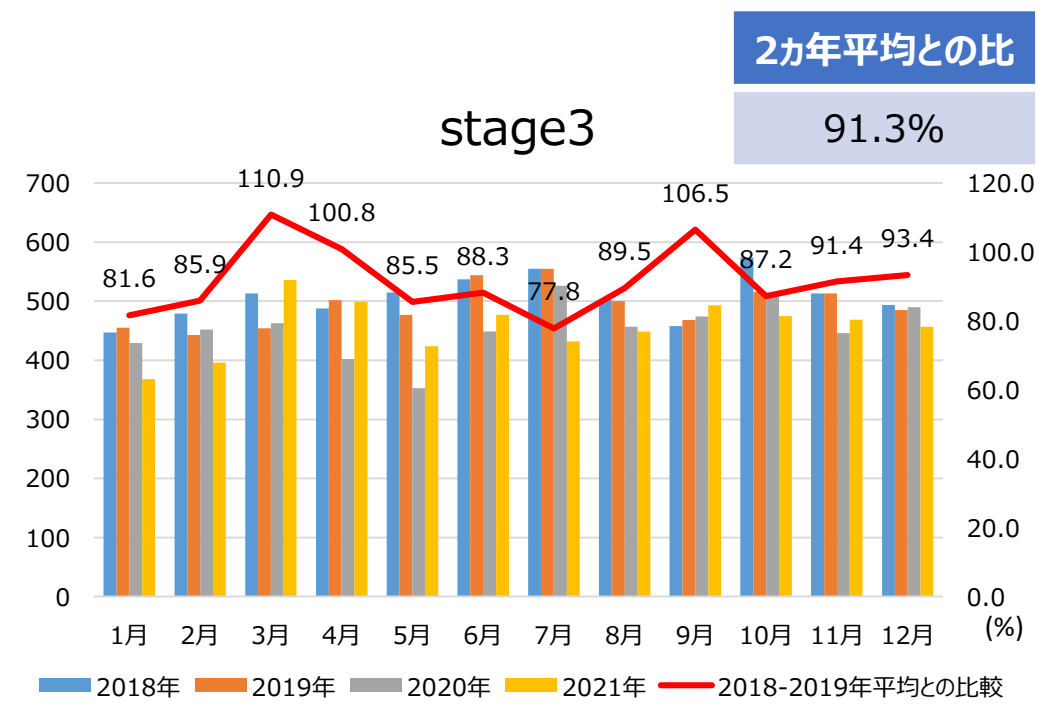
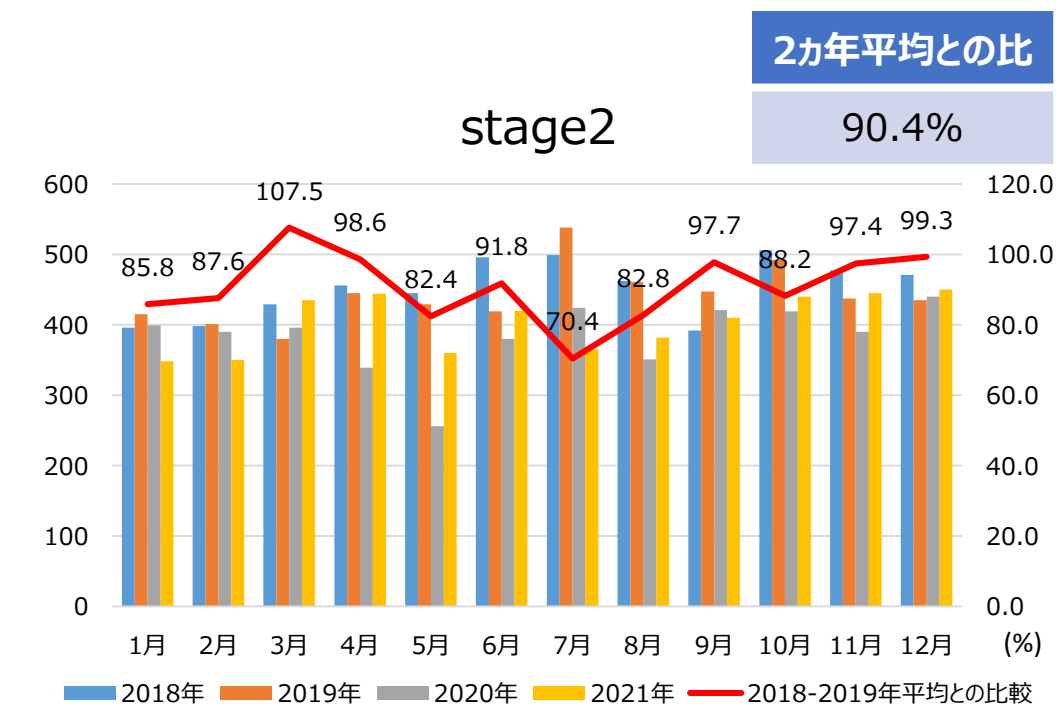
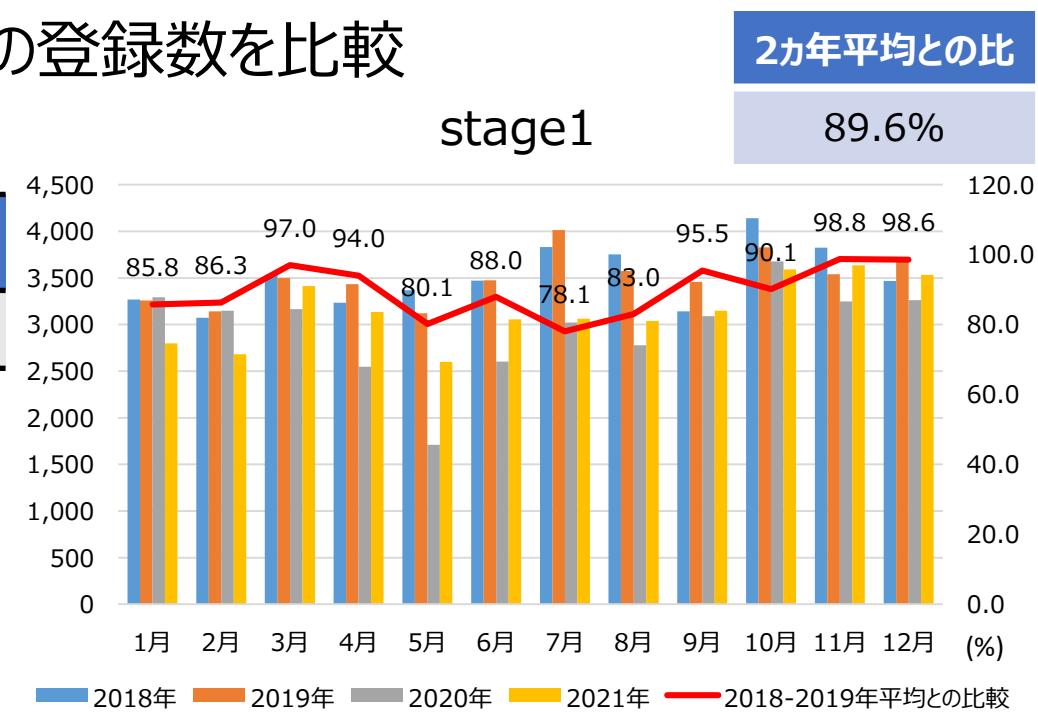
⇒早期がんの割合が2021年もまだ低い  
(非小細胞性肺がん以外)

⇒膵がんstage1が増加している理由は不明

# 各stageの登録数を比較

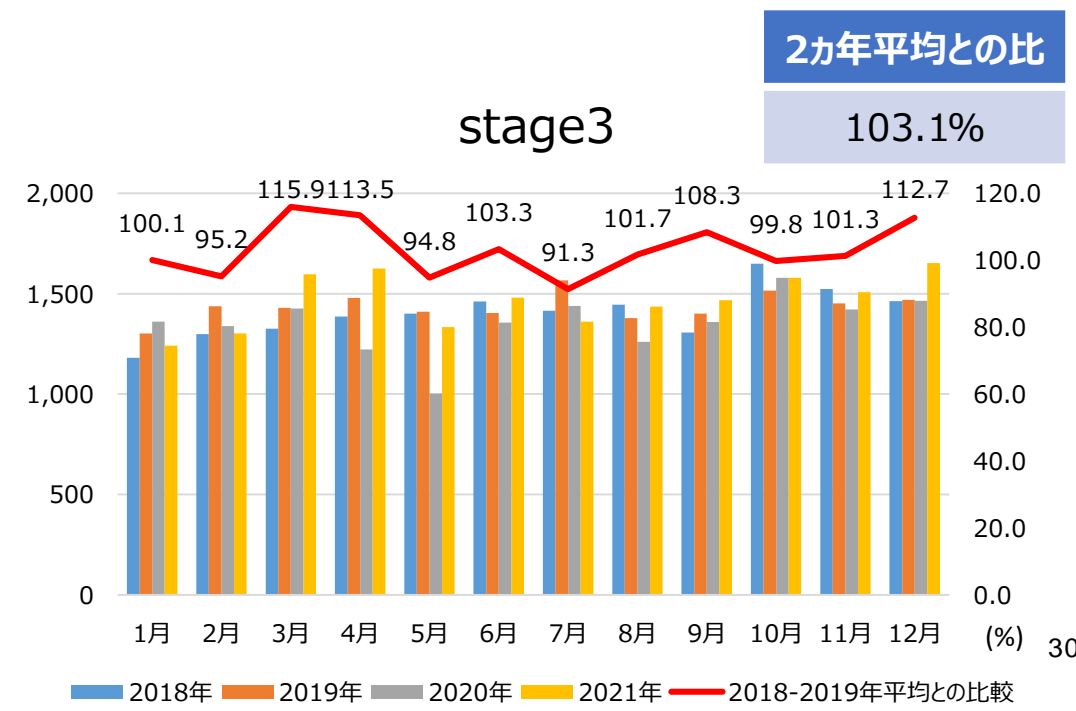
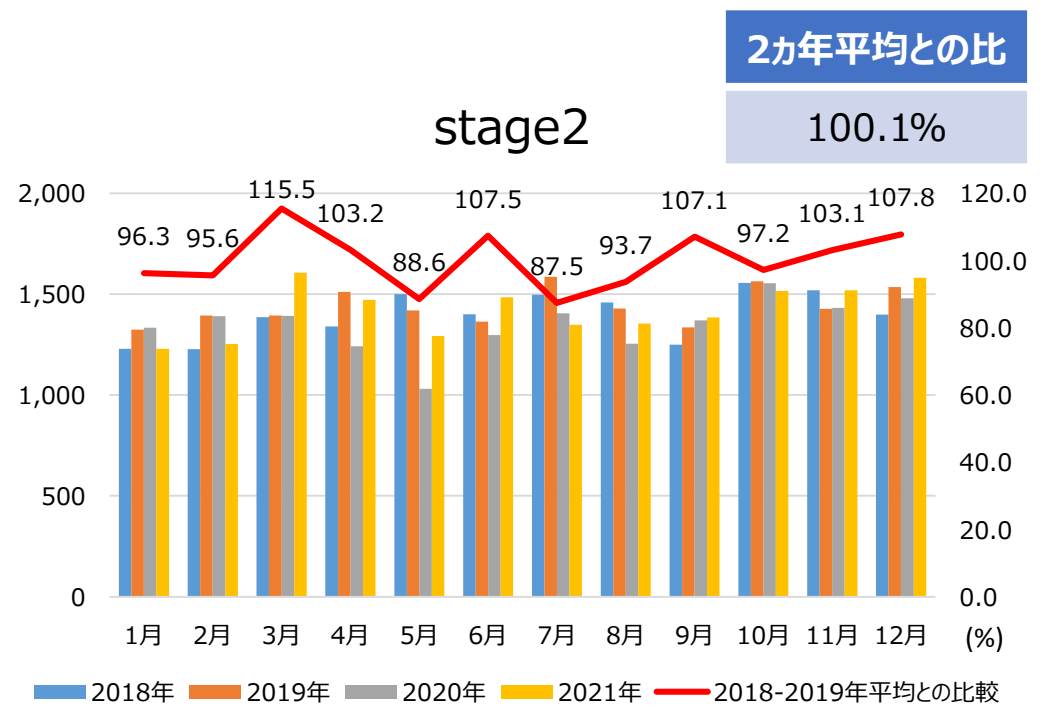
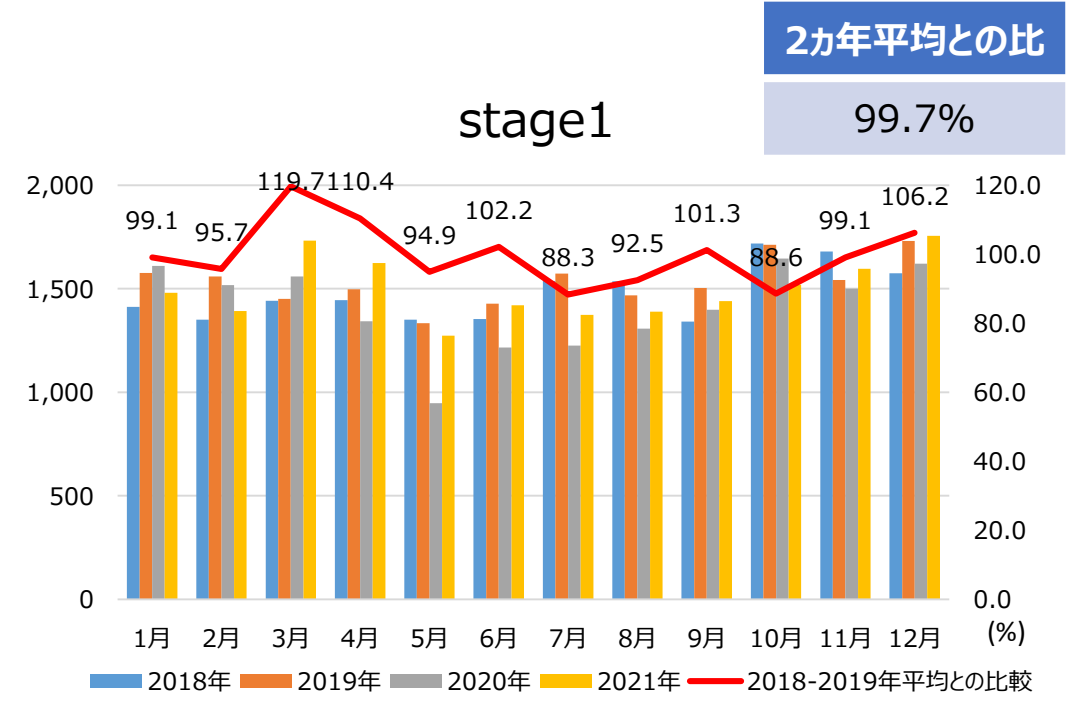
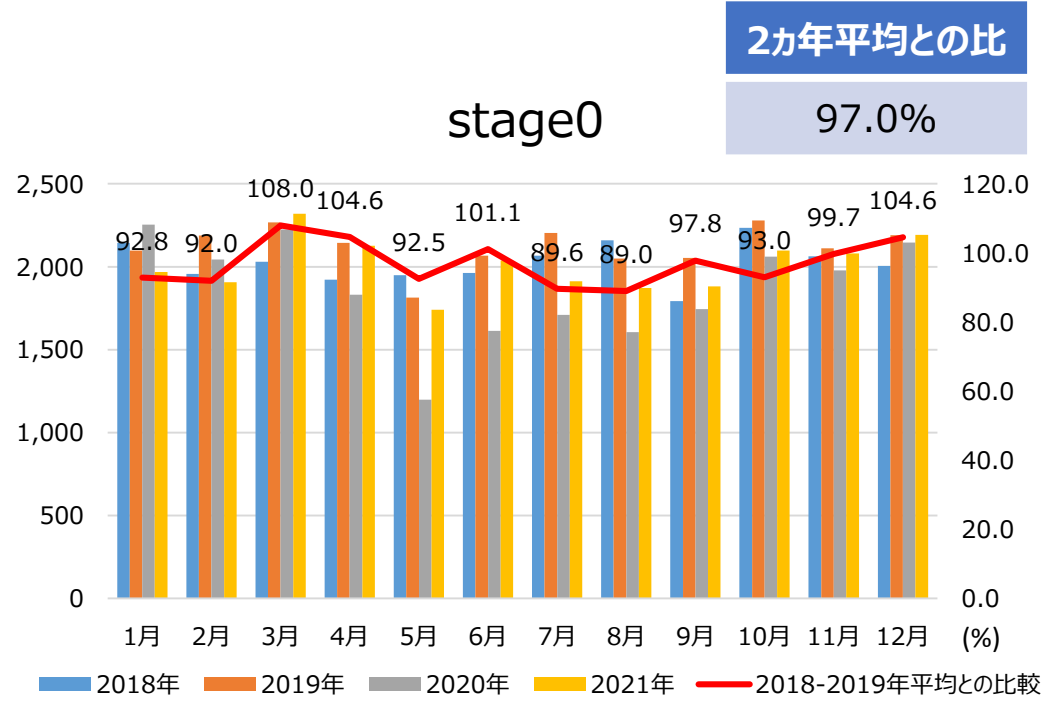
胃がん

全stageでの  
2か年平均との比  
90.7%



# 大腸がん

全stageでの  
2か年平均との比  
100.2%

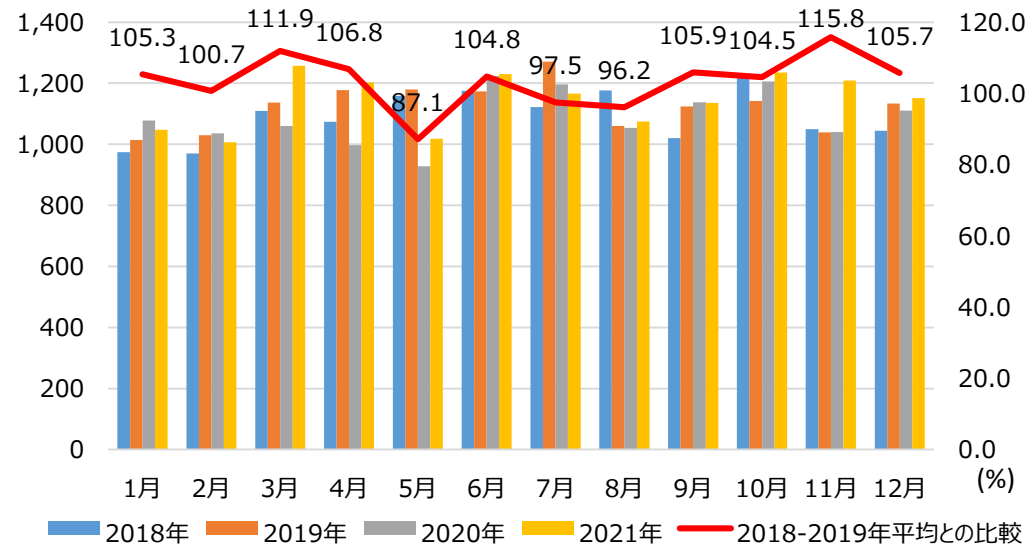


# 大腸がん

2カ年平均との比

103.4%

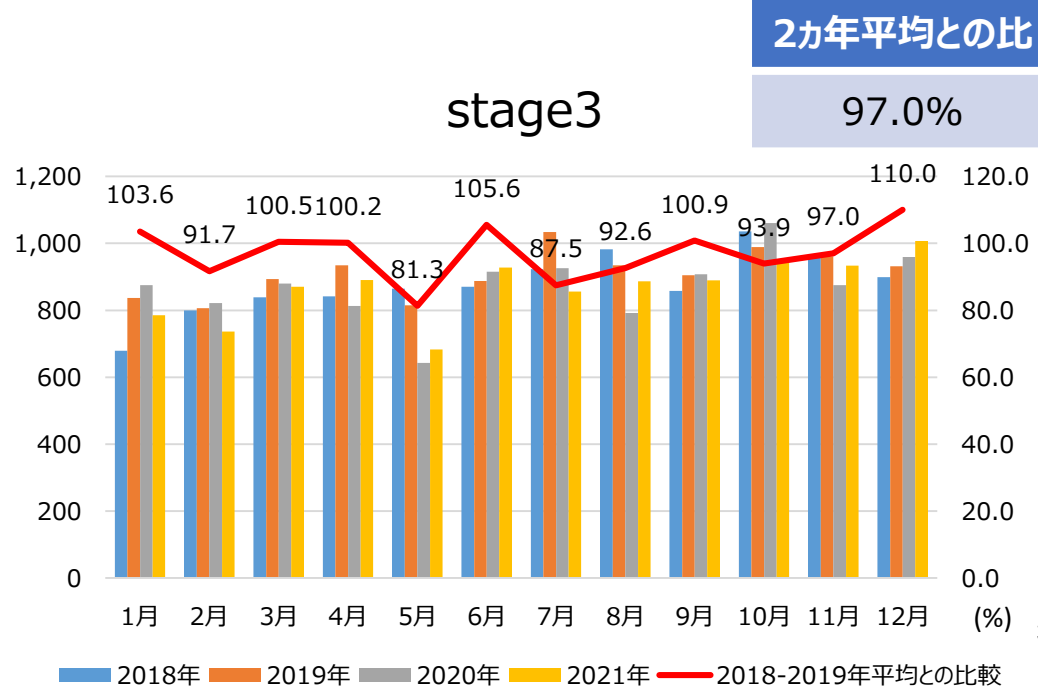
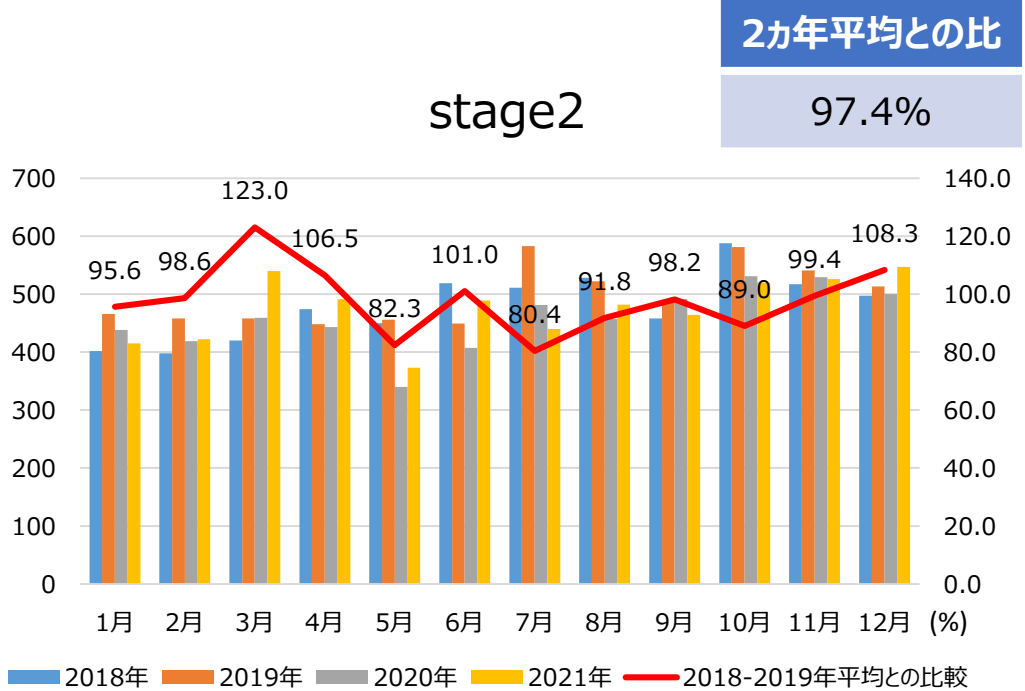
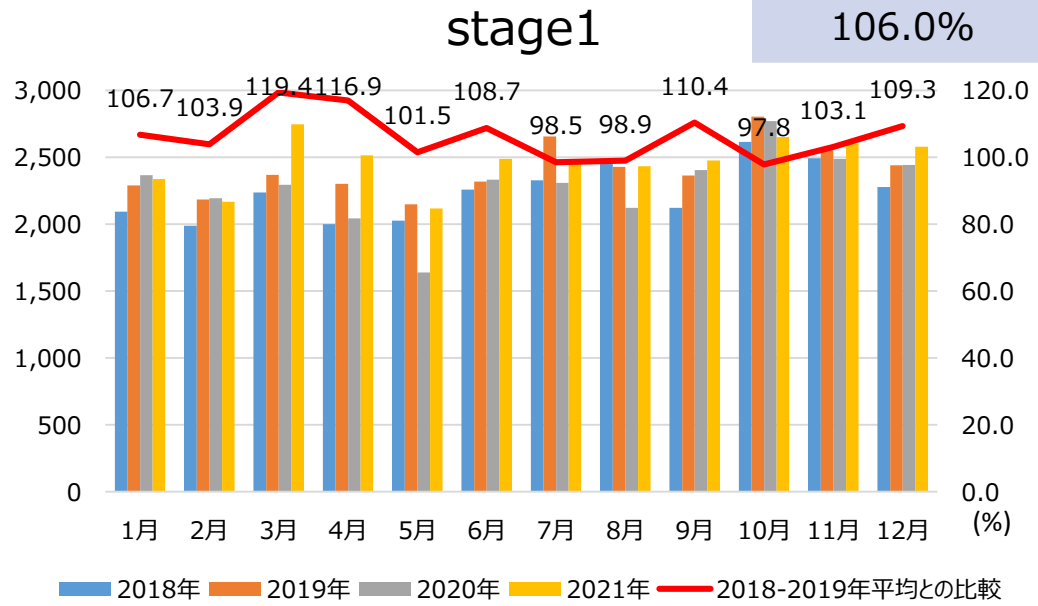
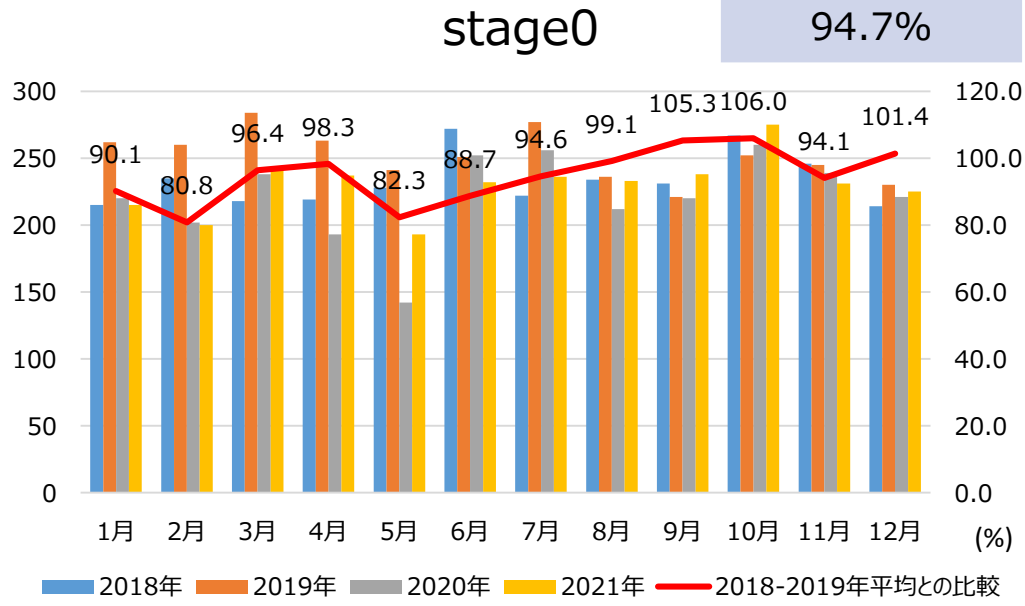
## Stage4





# 非小細胞性肺がん

全stageでの  
2か年平均との比  
102.5%

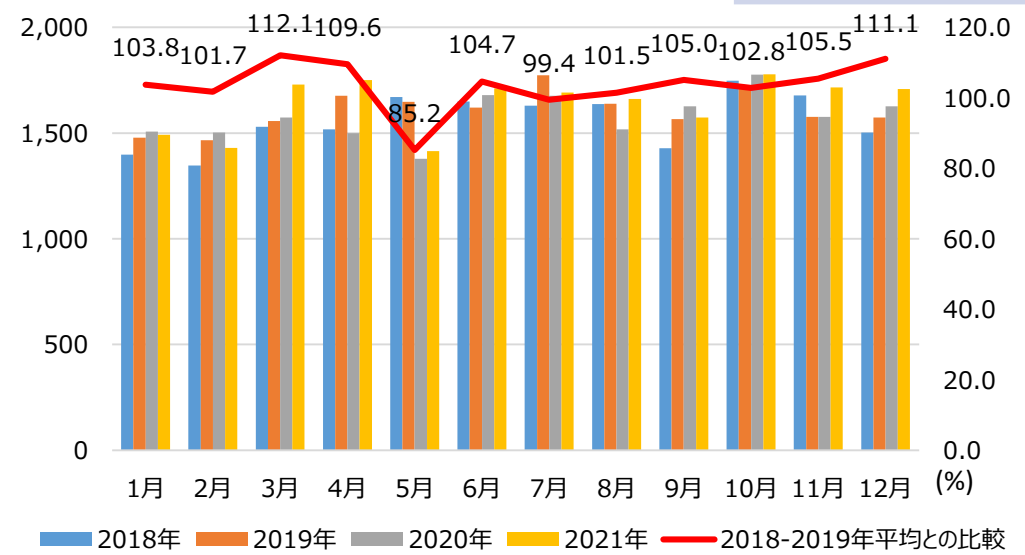


# 非小細胞性肺がん

2カ年平均との比

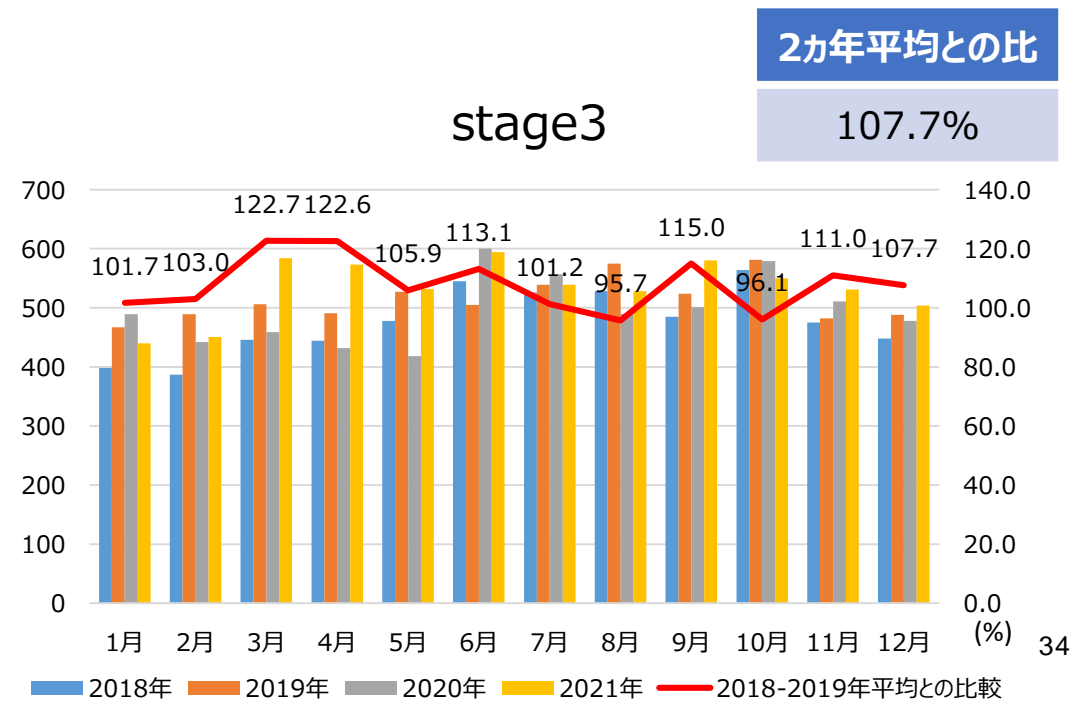
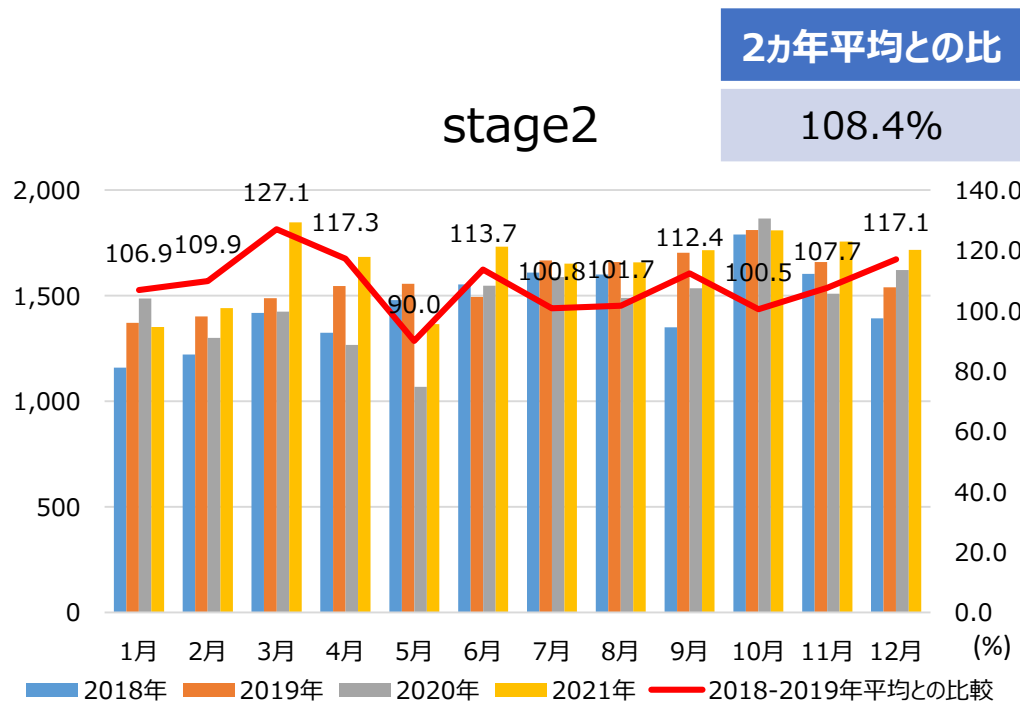
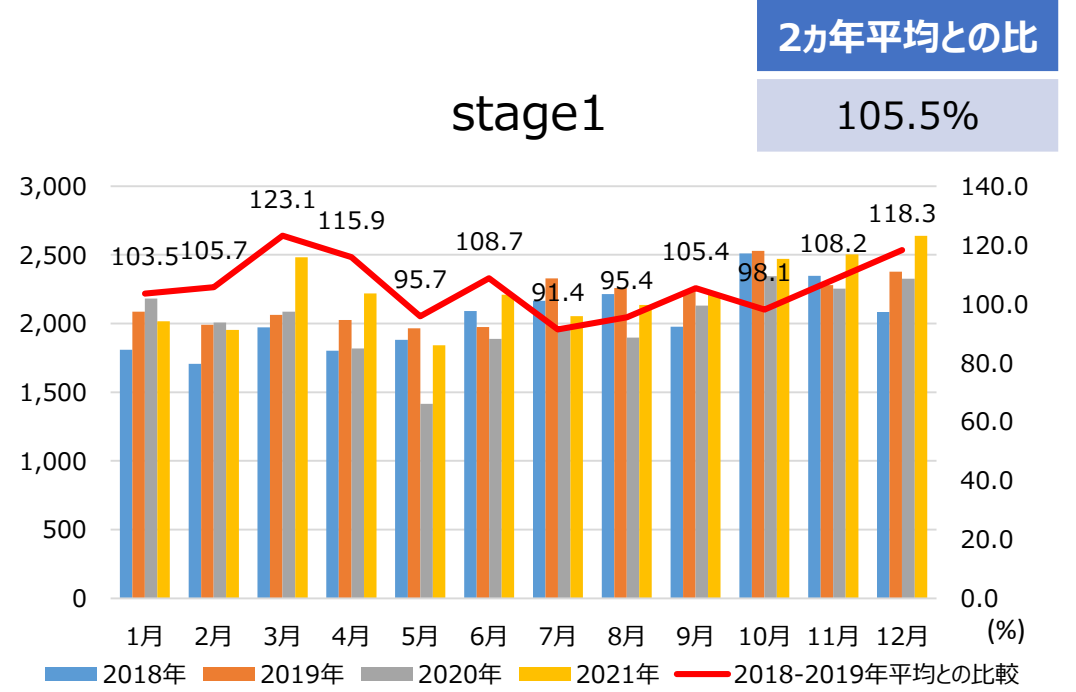
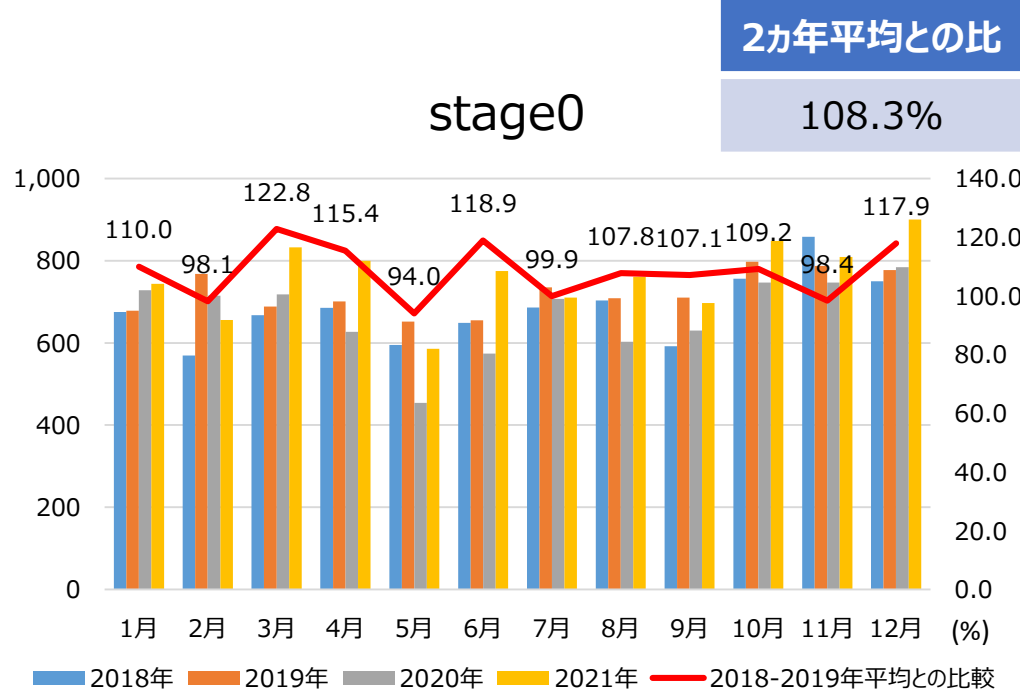
Stage4

103.4%



# 乳がん

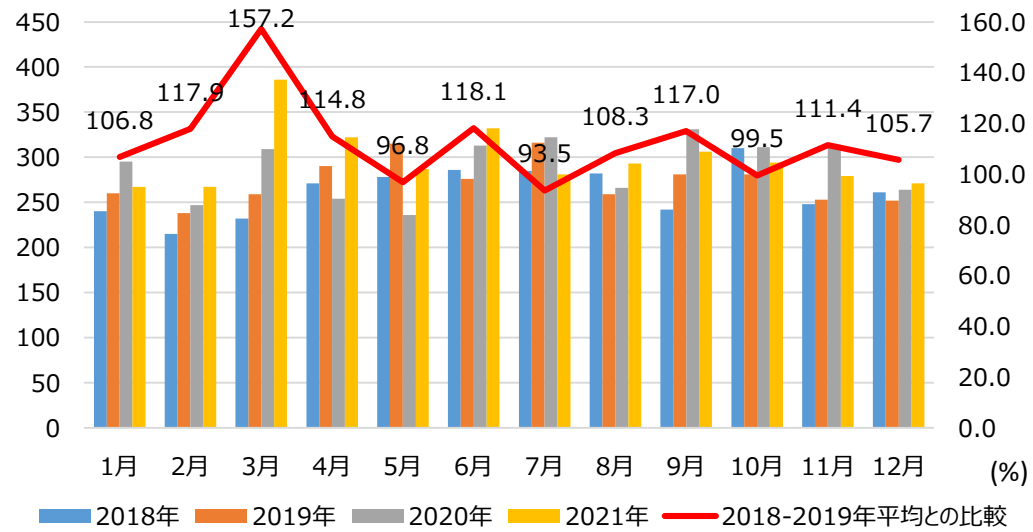
全stageでの  
2か年平均との比  
107.2%



2カ年平均との比

stage4

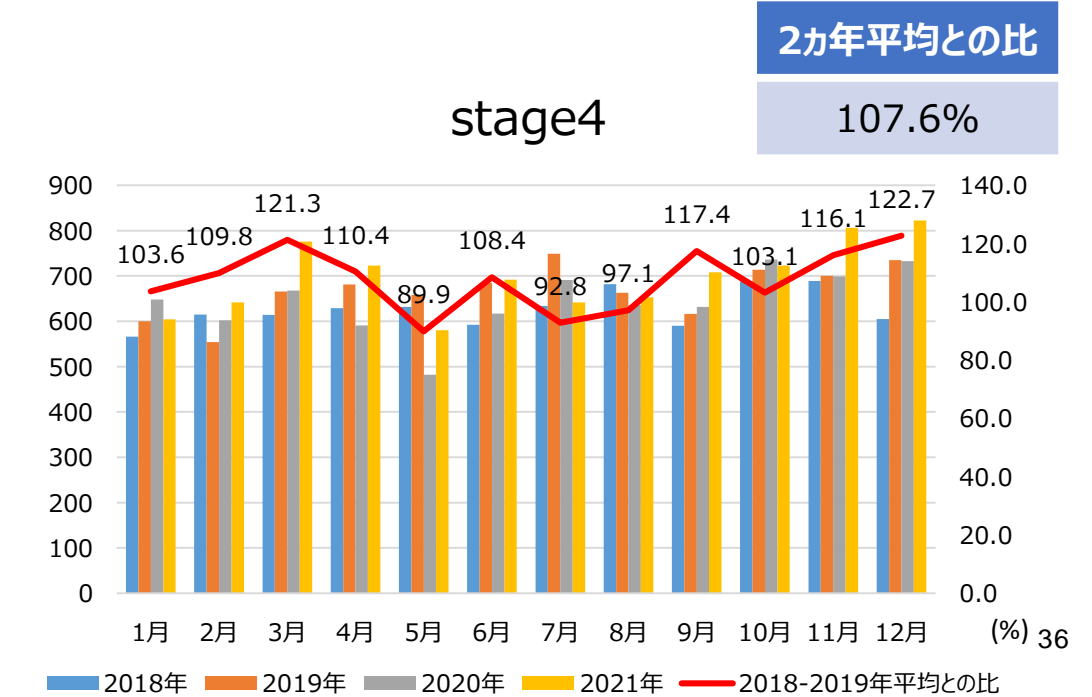
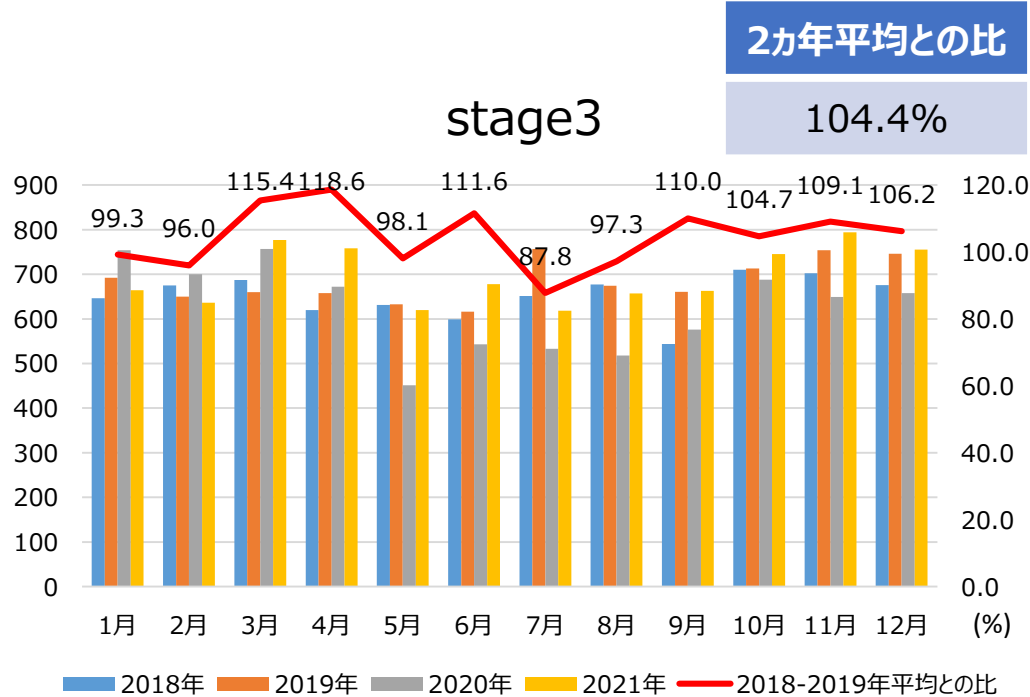
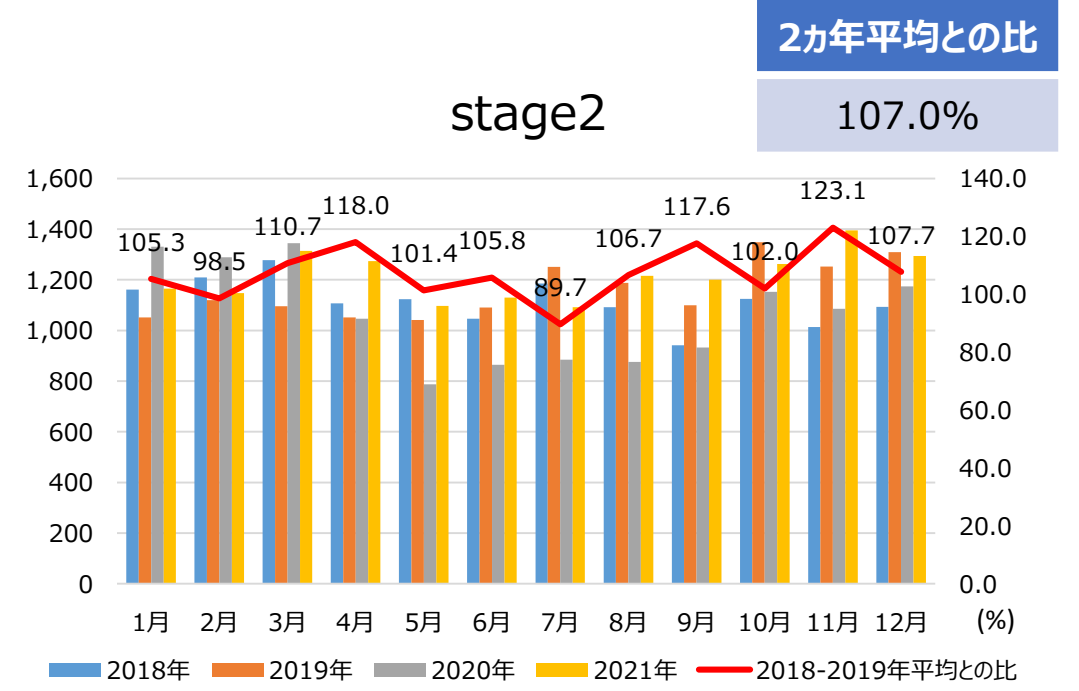
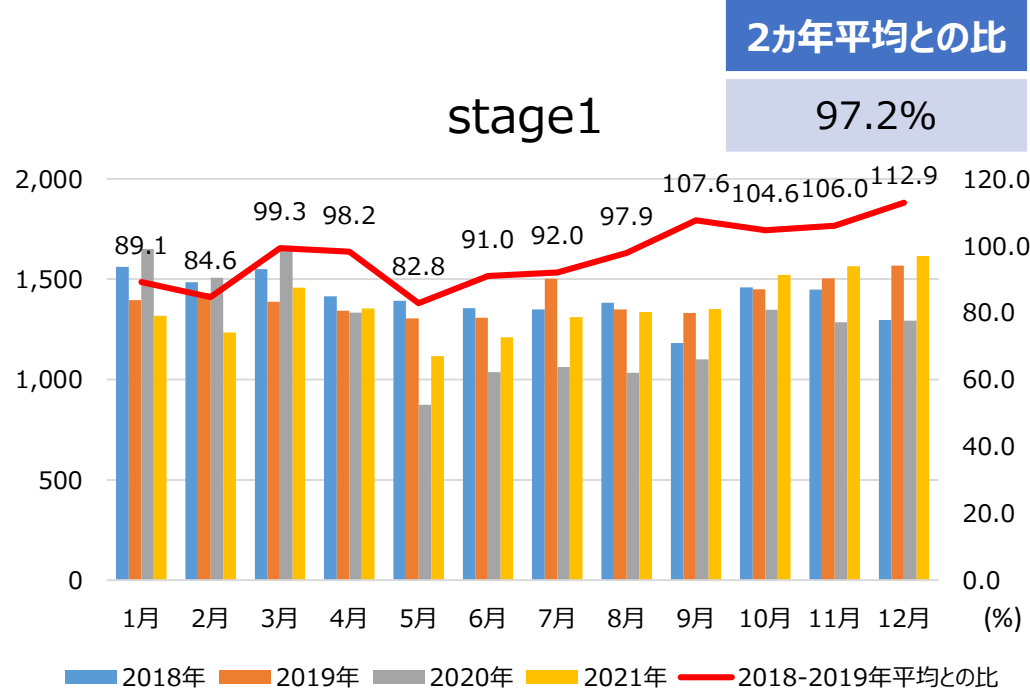
111.5%



# 前立腺がん

全stageでの  
2か年平均との比

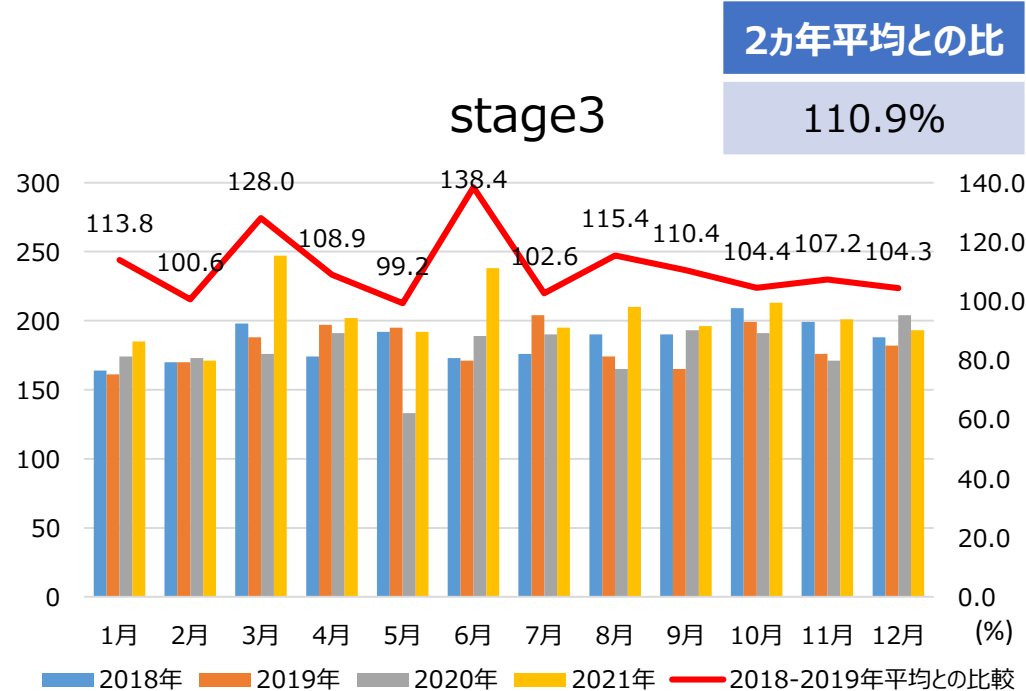
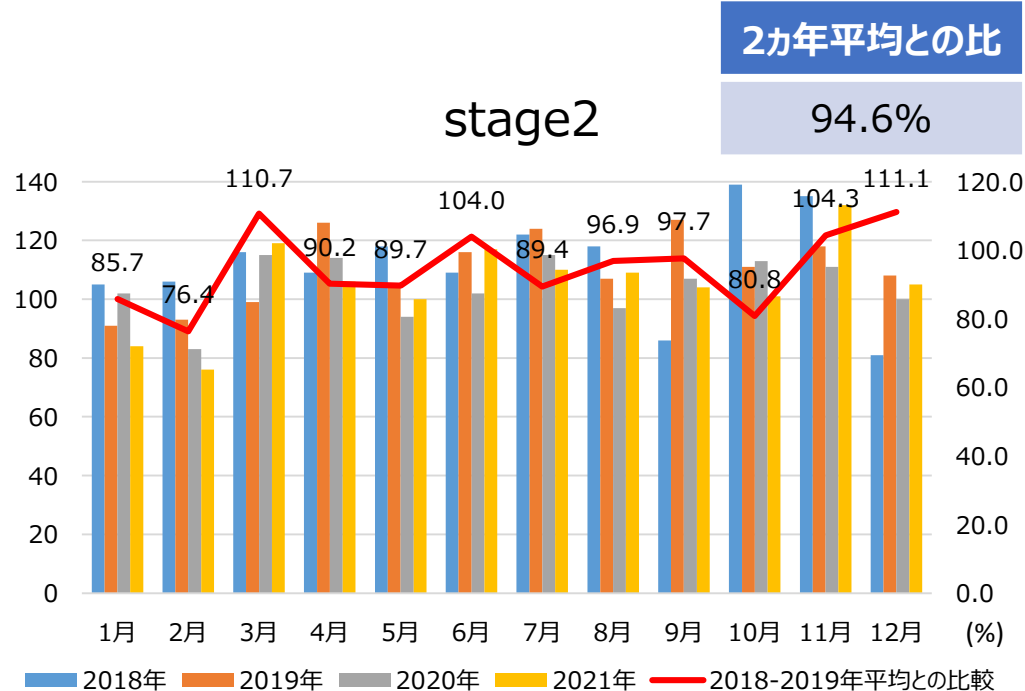
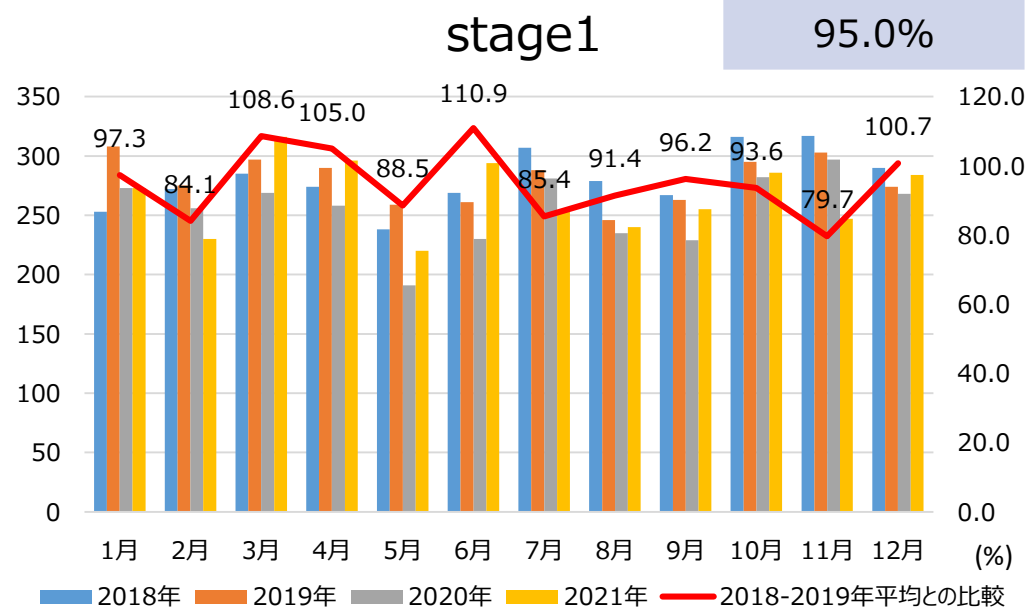
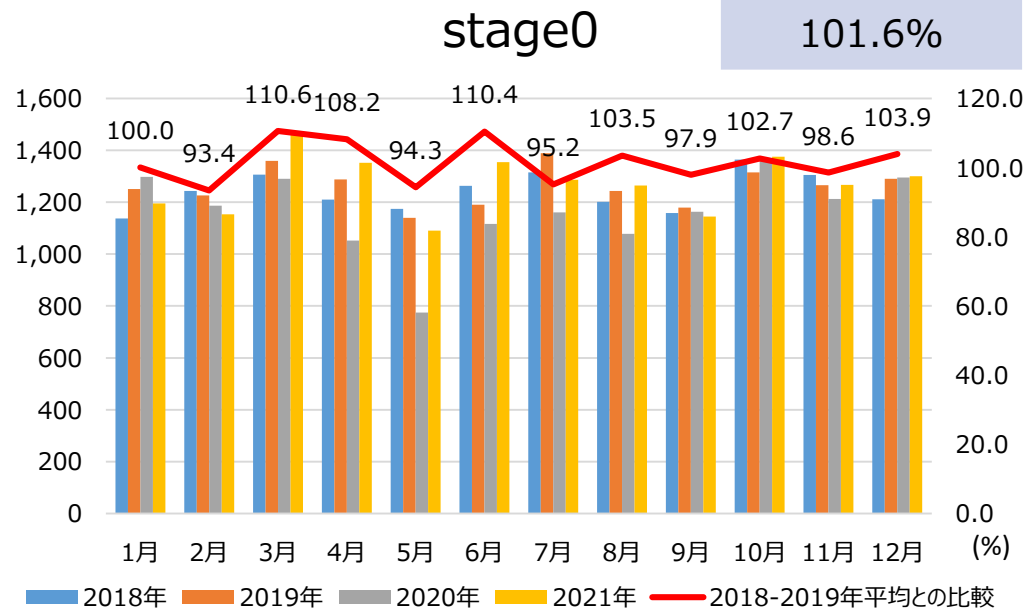
103.0%



# 子宮頸がん

全stageでの  
2か年平均との比

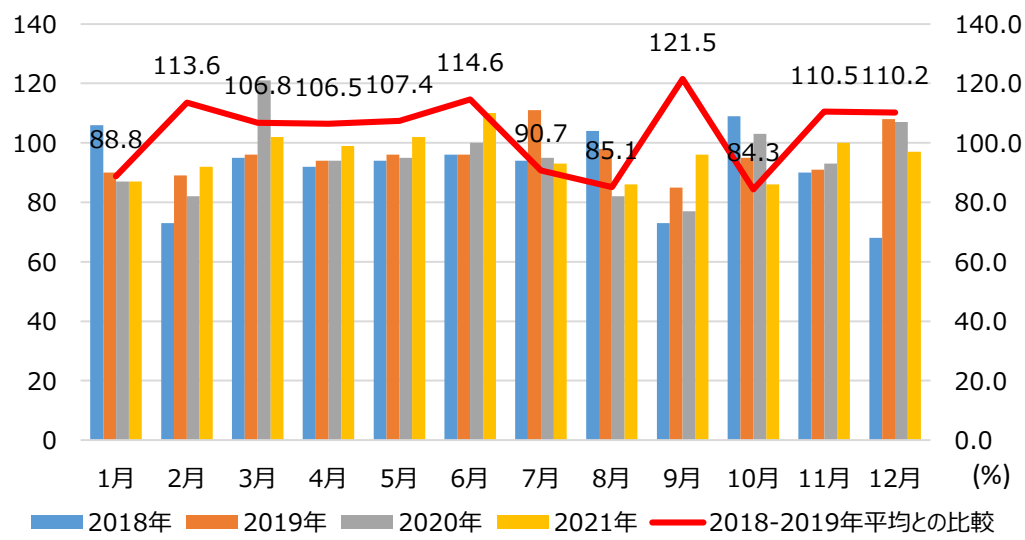
101.2%



子宮頸がん

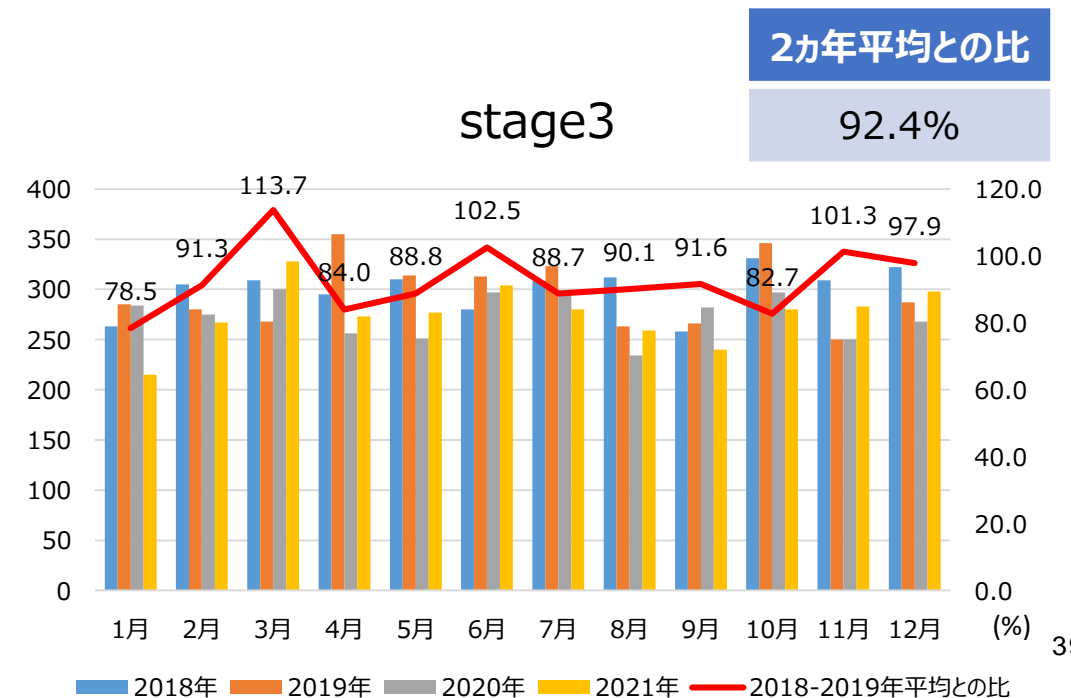
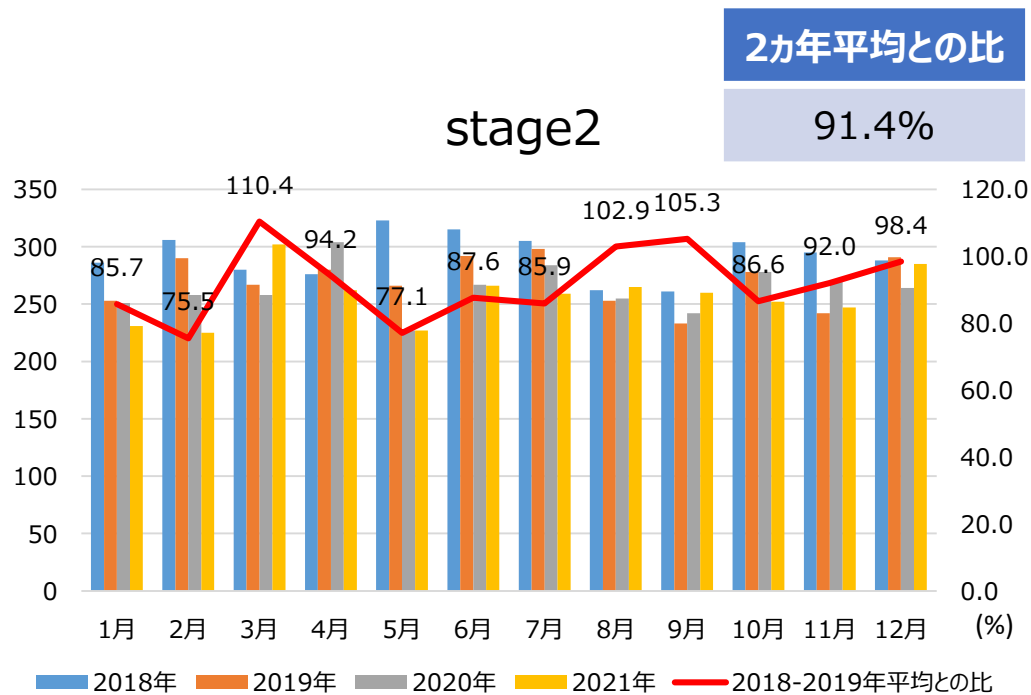
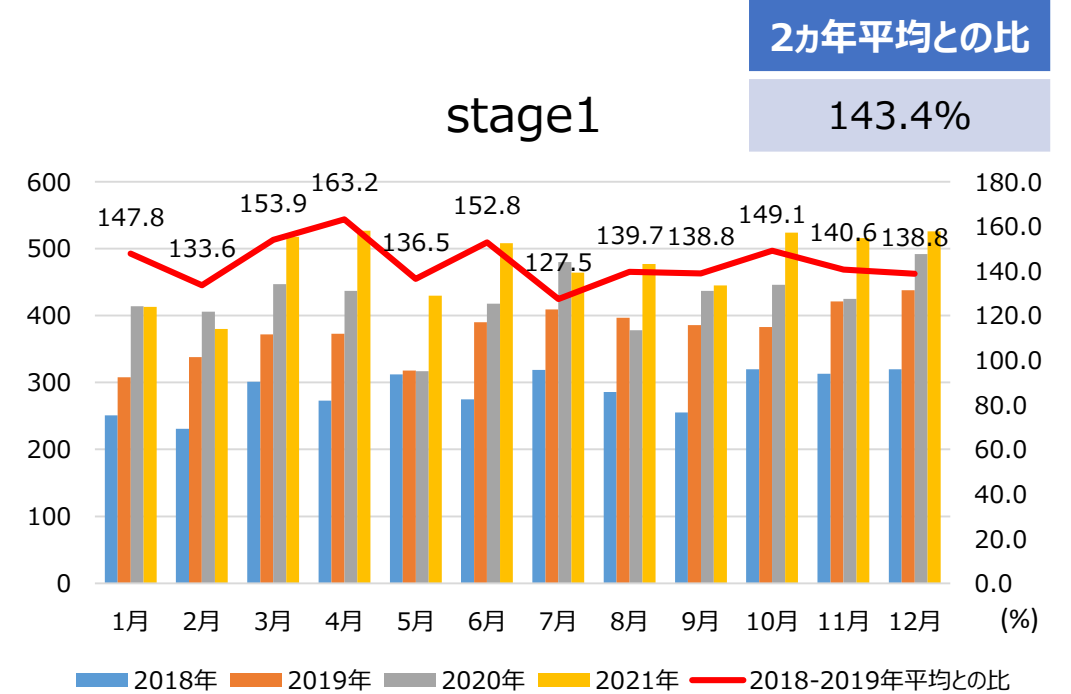
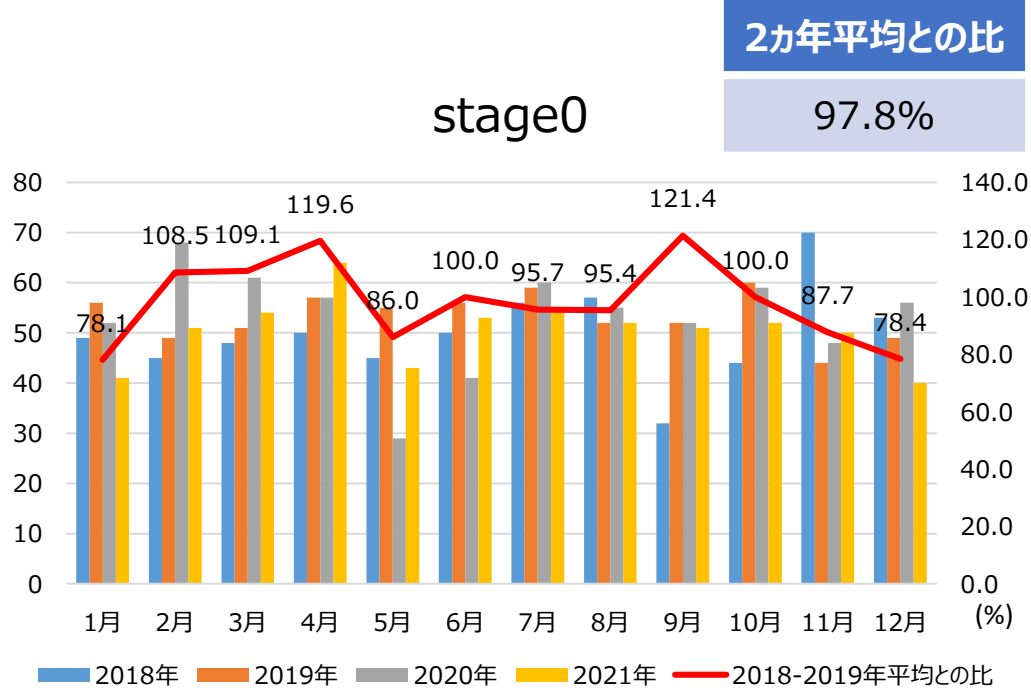
2カ年平均との比  
102.5%

stage4



# 膝がん

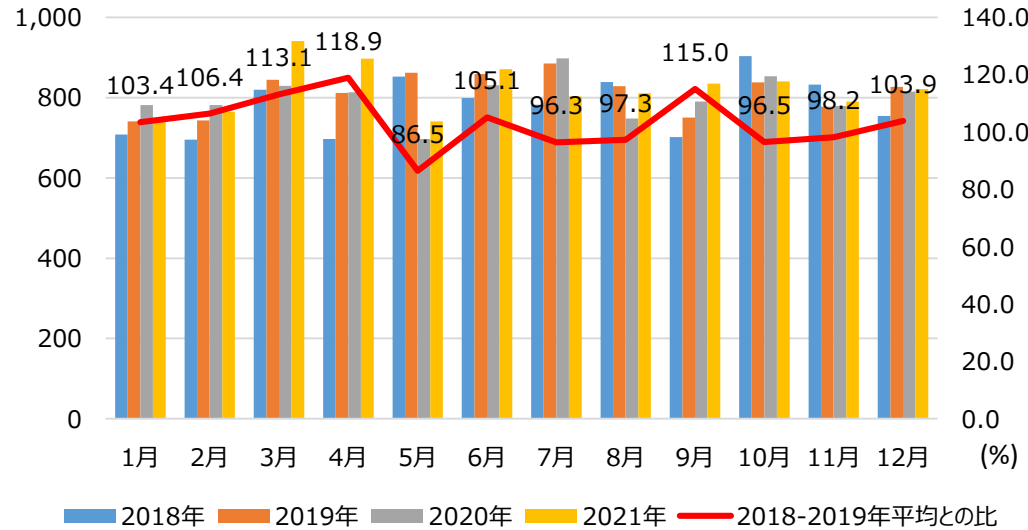
全stageでの  
2カ年平均との比  
106.9%





stage4

103.0%



- 胃がんは全stageで減少(特にstage1-3)
- 大腸がんはstage0が軽度減少
- 非小細胞性肺がんはstage0のみ減少しstage1増加
- 子宮頸がんはstage1/2が減少、stage3が増加

⇒ 早期がんが減少しており、発見経緯の結果を加味して検診受診率・精密検査受診率が十分に回復しているかの確認が今後必要

(ただし非小細胞性肺がんはstage1が増加しておりstage0が減ったのは検診とは無関係の可能性)

- 前立腺がんstage2/4が増加、子宮頸がんstage3が増加

⇒ stage別割合でも増加しており、2018-19年平均よりも進行期での発見が増加した(以下、up stage)可能性

- 乳がんは全stageが増加

⇒ stage別割合は変化がないため、up stageではなく、全体的に増加傾向である可能性

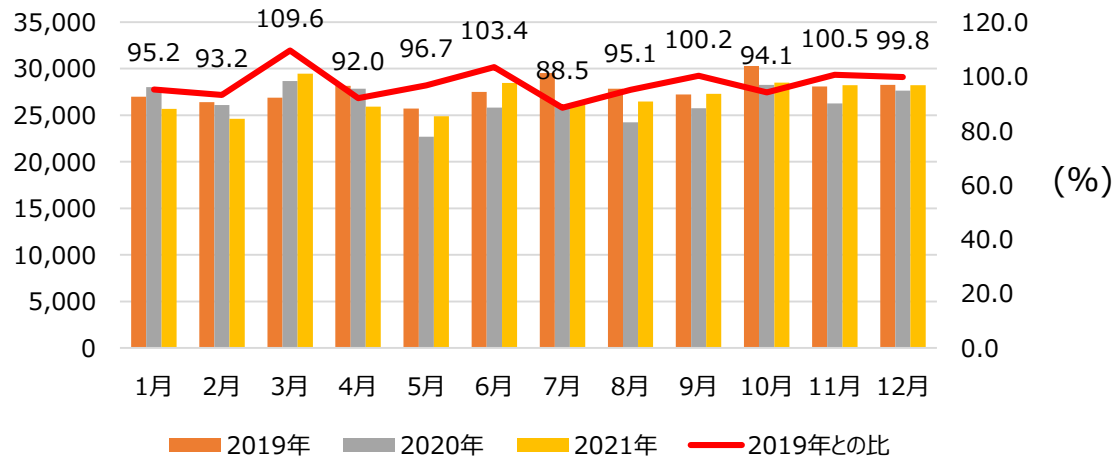
# 5. 治療月別治療方法登録数の推移

- 全がんで  
外科的+鏡視下治療、内視鏡的治療、放射線治療、化学療法、内分泌療法の  
治療実施月別の推移確認
- がん種別に治療方法別割合を確認
  - 一部のstageで減少・増加が認められた、胃がん・大腸がん・非小細胞性肺がん・前立腺がん・子宮頸がん・膵がんについて治療の内訳を経年比較
- 全がん、いずれかの治療の割合が減少したがん種において、年齢区分別に経年比較

# 2019年の各月治療数との比較

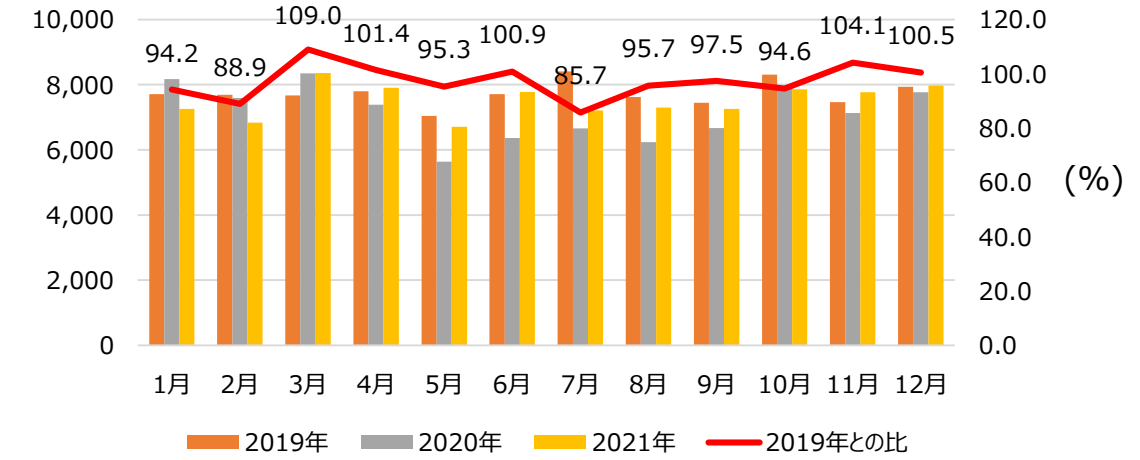
	2019年との比
2020年	95.3%
2021年	97.3%

## 外科的+鏡視下治療



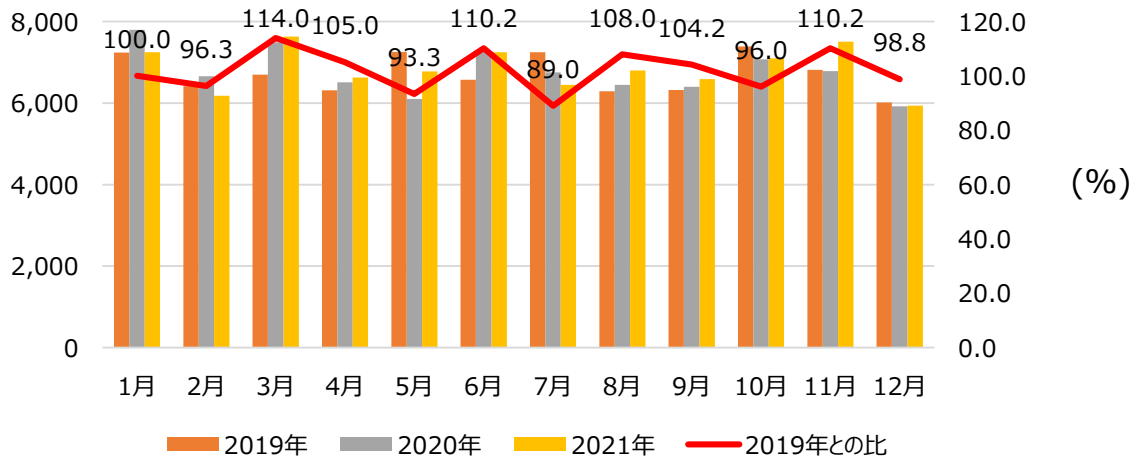
	2019年との比
2020年	92.5%
2021年	97.2%

## 内視鏡的治療



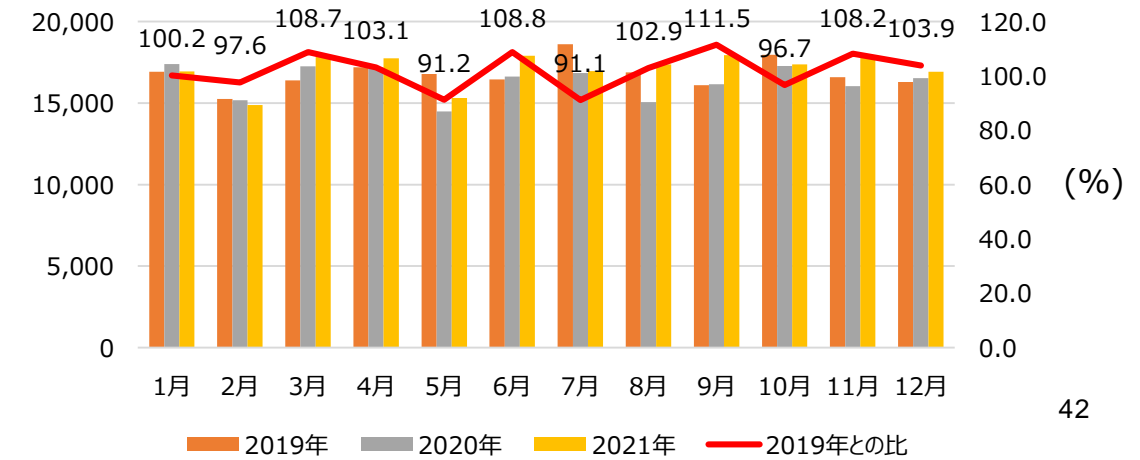
## 放射線治療

	2019年との比
2020年	100.8%
2021年	101.9%



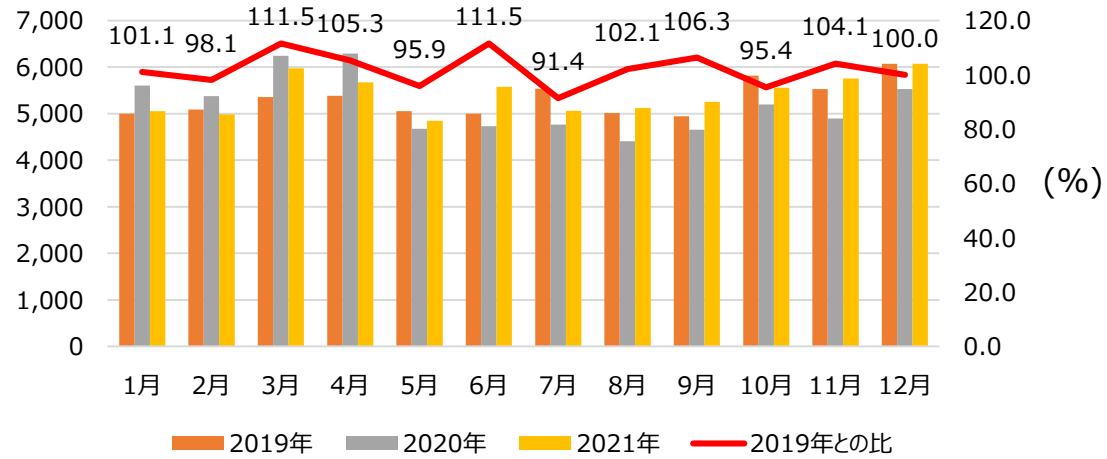
## 化学療法

	2019年との比
2020年	97.3%
2021年	101.8%



	2019年との比
2020年	97.8%
2021年	101.8%

## 内分泌療法

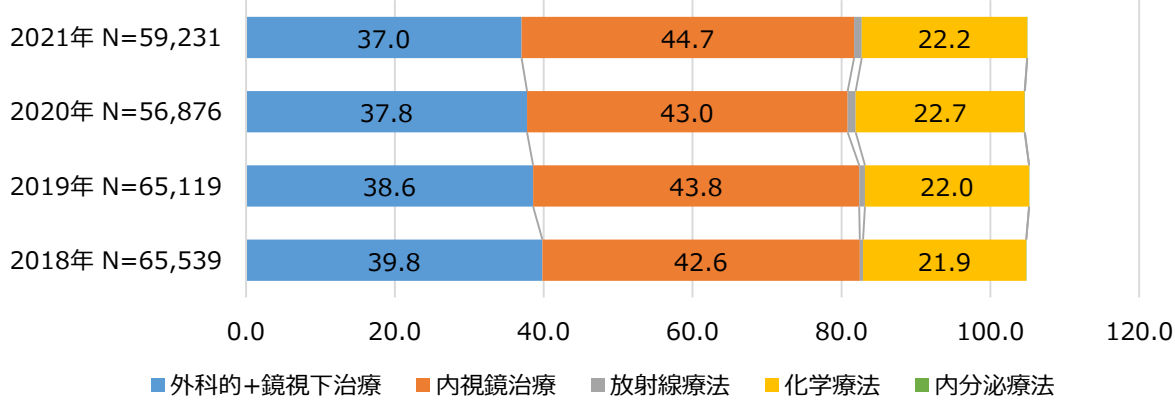


- 外科的治療+鏡視下治療、内視鏡治療は2020年には2019年より4-7割より減少したが、2021年には回復傾向(2019年よりはやや少ない)

# 各治療登録割合\*の比較

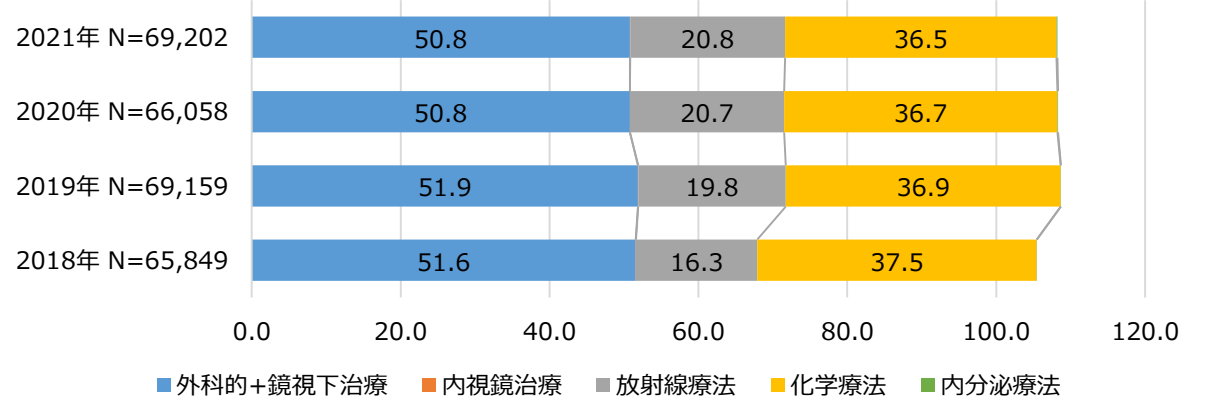
\* がん治療では、複数の治療方法が組み合わせて実施されるため、同一症例において複数の治療方法が実施され得る。この場合、全ての治療方法が登録される。そのため、各治療方法登録割合を合計した場合100%を超えることがある。

## 胃がん



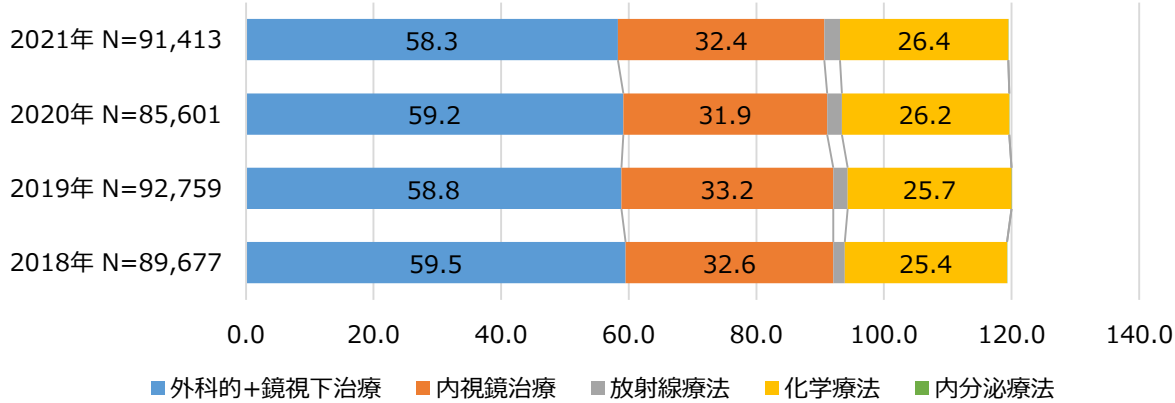
	外科+鏡視下	内視鏡	放射線	化学療法	内分泌
2021年と2か年平均との差	-2.2%	1.5%	0.4%	0.2%	0.0%

## 非小細胞性肺がん



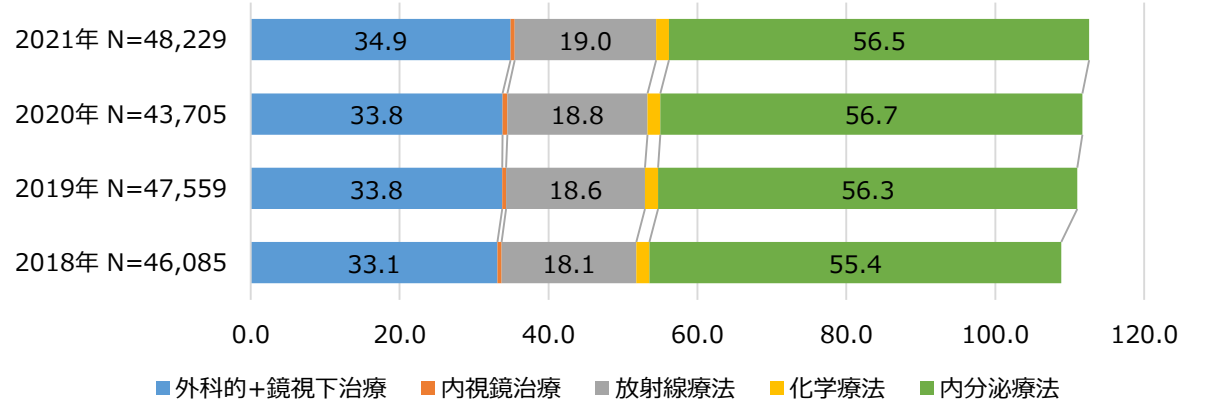
	外科+鏡視下	内視鏡	放射線	化学療法	内分泌
2021年と2か年平均との差	-0.9%	0.0%	2.8%	-0.8%	0.1%

## 大腸がん



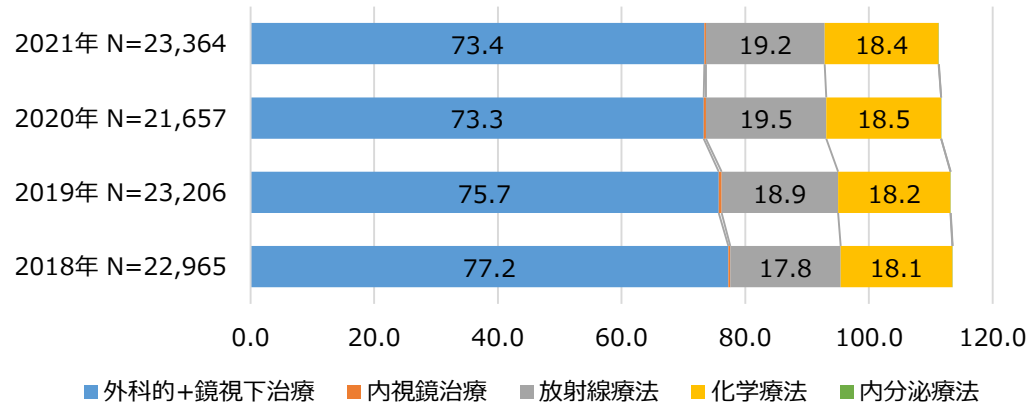
	外科+鏡視下	内視鏡	放射線	化学療法	内分泌
2021年と2か年平均との差	-0.9%	-0.5%	0.5%	0.8%	0.0%

## 前立腺がん



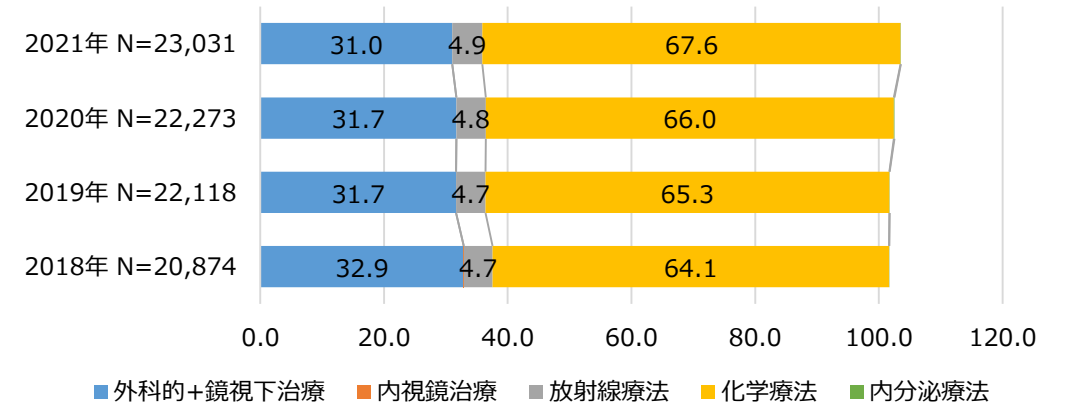
	外科+鏡視下	内視鏡	放射線	化学療法	内分泌
2021年と2か年平均との差	1.4%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%

## 子宮頸がん



	外科+鏡視下	内視鏡	放射線	化学療法	内分泌
2021年と2カ年平均との差	-3.1%	-0.1%	0.9%	0.3%	0.0%

## 膵がん

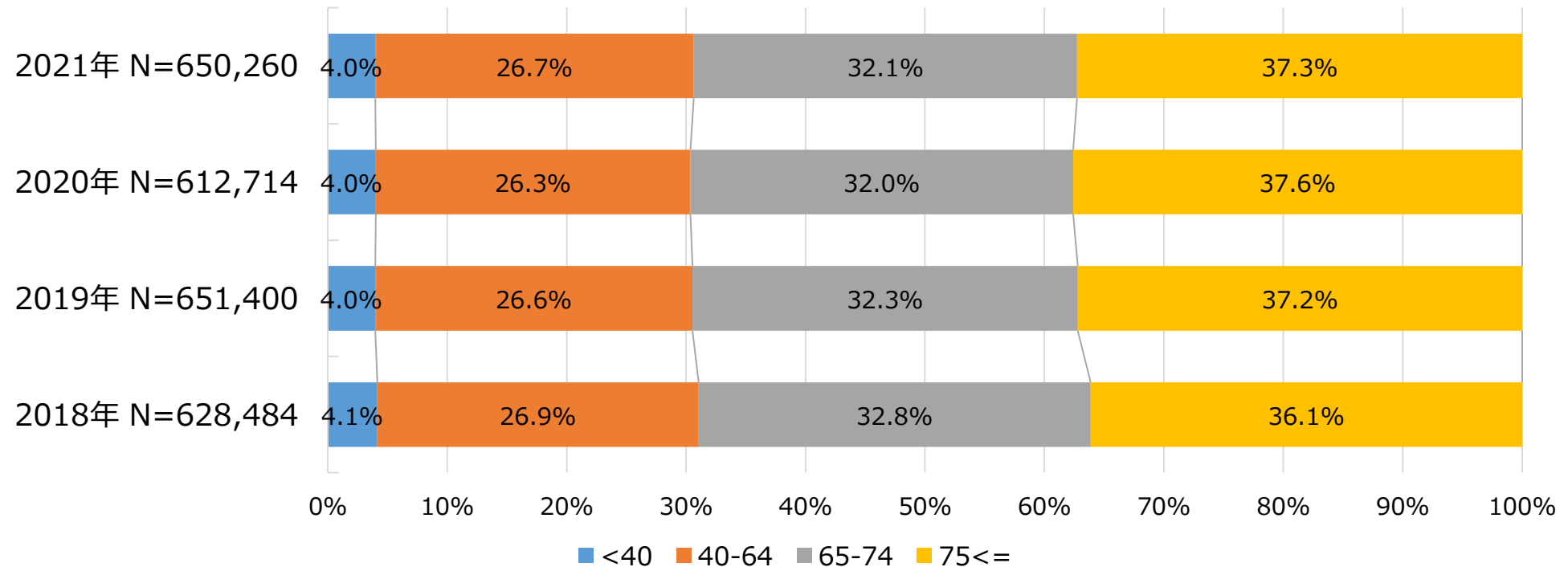


	外科+鏡視下	内視鏡	放射線	化学療法	内分泌
2021年と2カ年平均との差	-1.2%	0.0%	0.2%	2.9%	0.0%

- 胃がんと子宮頸がんでは外科的治療+鏡視下治療実施割合が2カ年平均より減少(2020年,2021年)
  - 膵がんでは化学療法実施割合が2カ年平均より増加(2021年)
- ⇒胃がんと子宮頸がんの手術減少はstage1-2の数の減少を反映している可能性
- ⇒膵がんはstage1が増加しており、標準治療である術後補助化学療法の増加を反映している可能性

# 年齢区分の経年的変化

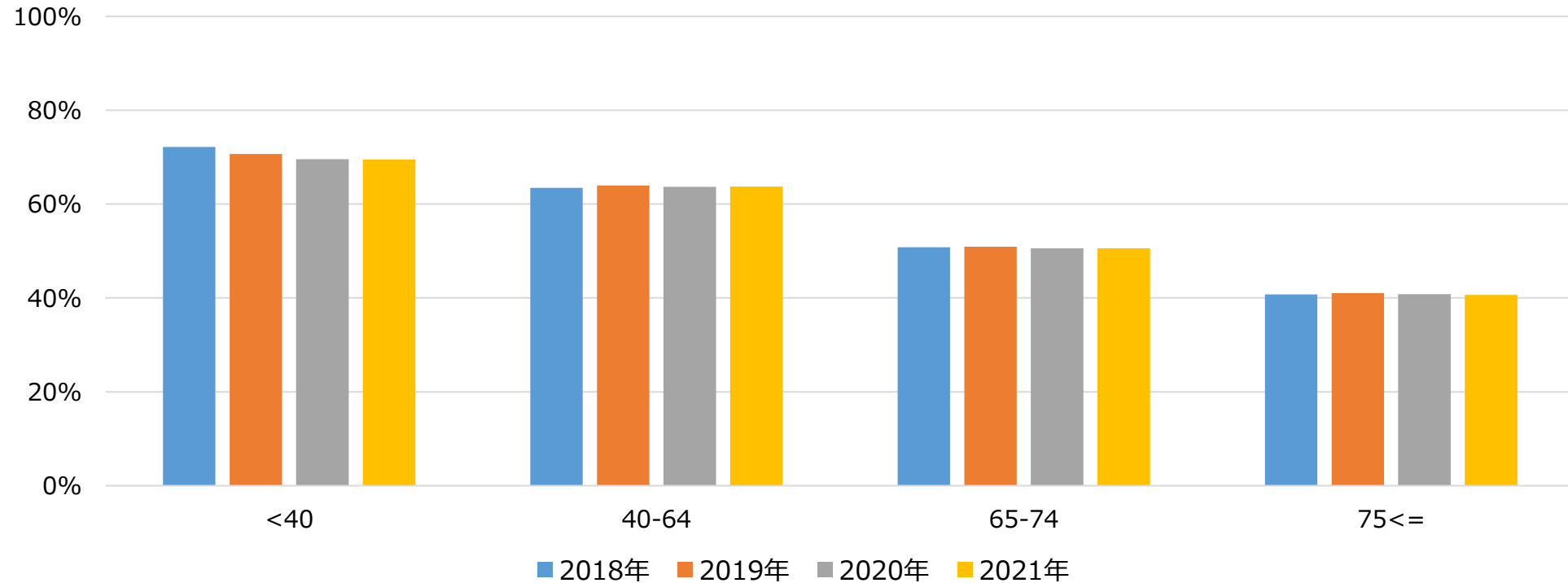
全がん



	<40	40-64	65-74	75<=
2021年と2カ年平均との差	-0.1%	-0.1%	-0.4%	0.6%

- 全がんでは年齢区分の経年的変化はほぼなし  
(75歳以上はやや増加)

# 全がんの年齢区分別手術実施率



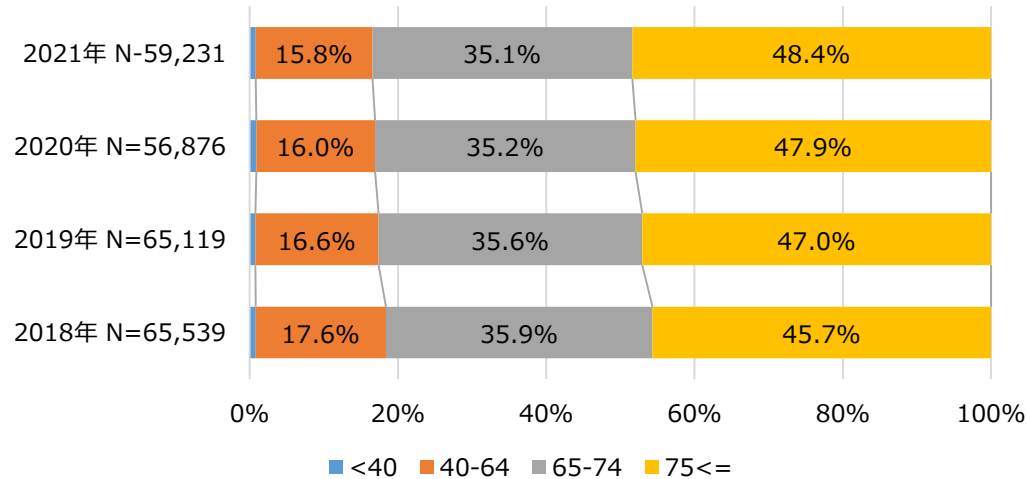
	<40	40-64	65-74	75<=
2021年の手術実施率	69.5%	63.8%	50.5%	40.6%
2021年と2か年平均との差	-1.9%	0.0%	-0.3%	-0.3%

- 全がんの手術実施率は40歳未満で経年的に減少傾向



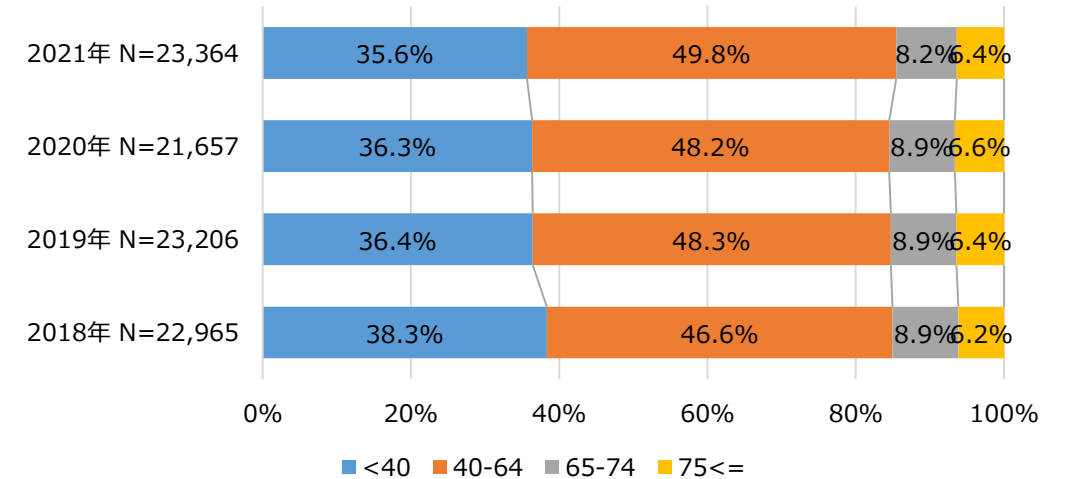
# 胃がん、子宮頸がんの年齢区分経年推移

## 胃がん



	<40	40-64	65-74	75<=
2021年と2カ年平均との差	0.0%	-1.3%	-0.7%	2.0%

## 子宮頸がん

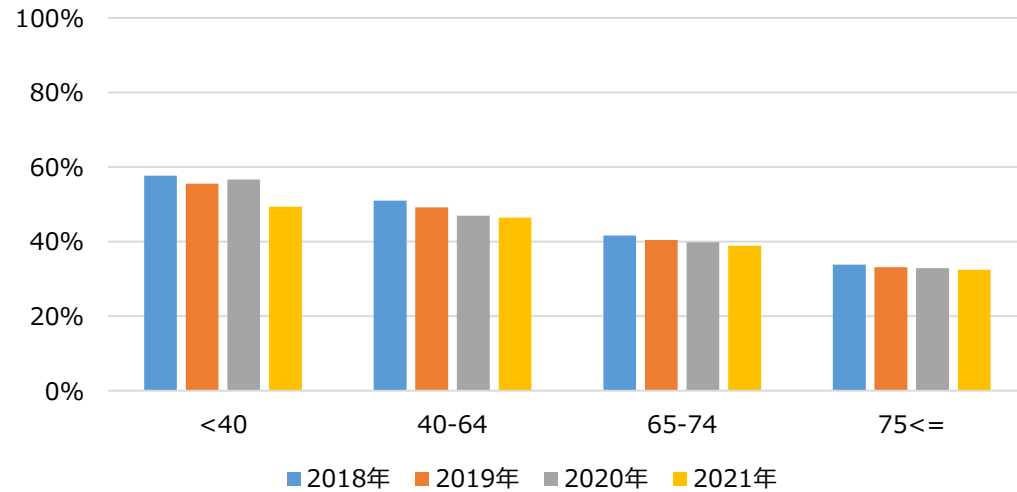


	<40	40-64	65-74	75<=
2021年と2カ年平均との差	-1.7%	2.4%	-0.7%	0.1%

- 胃がんでは、新規診断例における40-64歳の割合が減少傾向
- 子宮頸がんでは、新規診断例における40歳未満の割合が減少傾向、40-64歳の割合が増加傾向

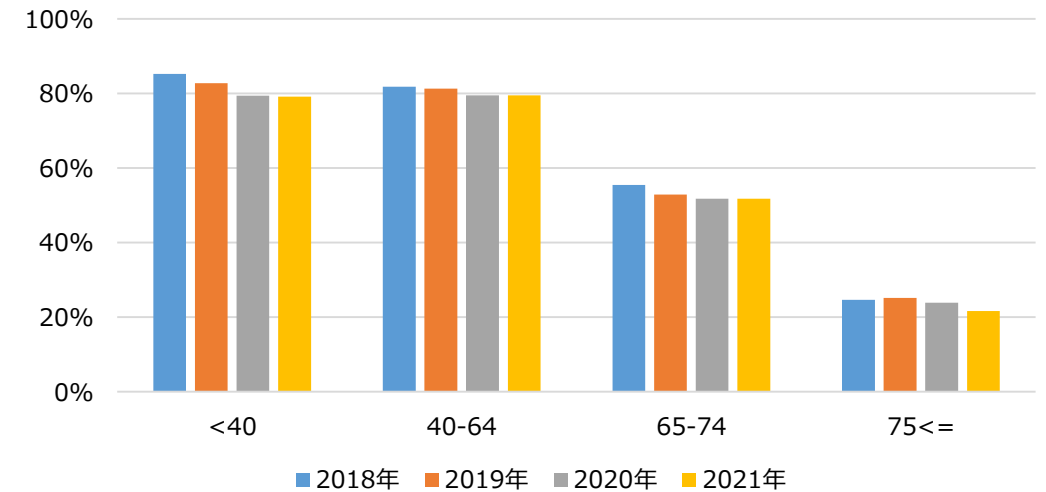
# 胃がん、子宮頸がんの年齢区分別手術実施率

## 胃がん



	<40	40-64	65-74	75<=
2021年の手術実施率	49.4%	46.4%	38.8%	32.5%
2021年と2か年平均との差	-7.3%	-3.7%	-2.2%	-1.0%

## 子宮頸がん



	<40	40-64	65-74	75<=
2021年の手術実施率	79.2%	79.5%	51.8%	21.7%
2021年と2か年平均との差	-4.9%	-2.1%	-2.4%	-3.2%

- 手術実施割合が過去平均より減少した胃がん、子宮頸がんにおいて、年齢区分によって手術実施割合の減少幅が異なるかを分析

⇒ 比較的若年者において、より手術実施割合が減少している傾向

# 最後に

- 2021年の新規がん登録数は2018-19年平均と同程度であった
- 2018-19年平均よりも進行期で発見される傾向かどうかは、  
2021年時点での評価困難
- 2022年以降も新規がん登録数やstage内訳のフォローアップが必要